

介護福祉士養成施設開示情報

1 設置者に関する情報

①	設置者の法人種別、名称並びに主たる事業所の所在地及び連絡先	学校法人 甲子園学院 663-8107 西宮市瓦林町4-25 TEL:0798-67-3300 FAX:0798-67-9101
②	法人の代表者の氏名	理事長: 久米 知子
③	介護福祉士学校以外の実施事業	http://www.koshien-c.ac.jp/faculty/
④	財務諸表	http://www.koshien.ac.jp/honbu/about_us/finance.html

2 養成施設のに関する情報

①	介護福祉士学校の名称、住所及び連絡先	甲子園短期大学生生活環境学科介護福祉フィールド 663-8107 西宮市瓦林町4-25 TEL:0798-67-3300 FAX:0798-67-9101
②	介護福祉士学科の代表者の氏名	学長: 早坂 三郎
③	介護福祉士学校の開設年月日	1999年4月
④	学則等	学則: 下記HP (P60～P70) http://www.koshien-c.ac.jp/document/about/public-info/10-01regulations.pdf 介護福祉士国家試験受験資格取得に関する規程: 下記HP (P81～P83) http://www.koshien-c.ac.jp/document/about/public-info/10-01regulations.pdf
⑤	介護福祉士学校の研修施設、図書館(蔵書数を含む。)等の設備の概要	図書館(蔵書数含む)等の設備: 下記HP⑤ http://www.koshien-c.ac.jp/document/about/public-info/03-facilities.pdf H29年度受入統計表: 下記1ページへ

3 養成課程に関する情報

①	養成課程のスケジュール(期間、日程、時間数)	期間、日程: 下記HP http://www.koshien-c.ac.jp/document/faculty/life/img_manabi_hukusi.pdf 時間数: 下記HP (P83) http://www.koshien-c.ac.jp/document/about/public-info/10-01regulations.pdf
②	定員	40名
③	入学までの流れ(募集、申込、資料請求先)	・学科ガイダンス(養成課程に関する説明会) ・養成課程希望者面談 ・履修登録 ※入学後、前期期間中に選抜します。
④	費用	http://www.koshien-c.ac.jp/exam/procedure.html
⑤	科目ごとのシラバス	下記2ページ～48ページ
⑥	教職員、科目ごとの担当教員名(教員氏名、略歴、保育資格)	科目ごとの担当教員名: 下記49ページ～51ページ
		専任教員略歴: 下記HP http://www.koshien-c.ac.jp/faculty/teacher.html
⑦	使用する教材	下記2ページ～48ページ
⑧	介護実習施設等の名称、住所及び事業内容	下記52ページ～53ページ
⑨	介護実習の内容及び特徴	下記54ページ～65ページ

4 実績に関する情報

①	卒業者の延べ人数	下記66ページ～67ページ
②	卒業者の進路の状況(就職先の施設種別、卒業者のうちの就職者数)	下記66ページ～67ページ

5 その他の情報

①	その他、入学者又は入学希望者の選択に関する情報	http://www.koshien-c.ac.jp/exam/
---	-------------------------	---

平成29年度 受入図書金額・冊数について

2018.4

			金額 円	冊数
図書	購入	和書	414,515	176冊
		洋書	21,369	5冊
	寄贈	和書	74,874	64冊
		洋書	0	—冊
	製本	和書	—	—冊
	合計		510,758	245冊
ビデオ	購入		—	—種
	寄贈		—	—種
	合計		0	0種
CD	購入		8,540	4枚
	寄贈		—	—枚
	合計		8,540	4枚
CD-ROM	購入		—	—枚
	寄贈		—	—枚
	合計		0	0枚
DVD	購入		37,680	3枚
	寄贈		—	—枚
	合計		37,680	3枚
雑誌	和雑誌		260,849	24種
	洋雑誌		—	—種
	合計		260,849	24種

新聞・雑誌 扱い (差替図書)	購入	122,536	19冊
	寄贈	0	—冊
	合計	122,536	19冊

購入総額	865,489円
寄贈総額	74,874円
合計	940,363円

甲子園短期大学図書館

授業科目	生命倫理				担当者名	浅沼 光樹					
サブタイトル	人間の尊厳と自立・介護場面での倫理的問題				担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け					
授業形態	講義	履修区分	選択	単位数	2 単位	授業回数 (授業時間)	15 回 (30 時間)	開講時期	Ⅱ 回生後期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士		社福主任用		フード 3 級		リトミック
	保育士	○	情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士		
授業目的	<p>医療技術の進歩は、これまで不可能だった治療を可能にしました。しかしこの進歩は医療技術の問題だけでなく、私たちの「ものの見方」にまで影響をあたえつつあります。たとえば、「人間の尊厳とはなにか、自立となにか」ということについて、これまで私たちがもっていたイメージがゆきぶられ、むしろ医療技術の進歩に合わせて私たちのほうが考え方をええざるをえなくなっています。</p> <p>このような状況をふまえ、授業では、現代的な「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的問題について対応できるための基礎となる能力を養う学習をおこないます。</p>										
授業内容/方法	<p>近年の医学・医療技術の急激な進歩にともなって浮かび上がってきた倫理上の問題のうち、重要なものを毎回一つずつ順番に取りあげます。ビデオ教材の視聴などを通して、その問題に自分ならばどう対処するか、ということを考えていきます。</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療技術の進歩とともに「人間」の理解がどのように変わりつつあるのかを理解する。 2. 人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解する。 3. 介護場面における倫理的問題について対応できるための基礎となる能力を身につける。 										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	この授業では何を学ぶのか—人間の尊厳と自立について	生命倫理という言葉の意味について調べておく	授業時の要点の復習
2	生命倫理とは何か—バイオエシックスの成立	生命倫理の成立の歴史について調べておく	授業時の要点の復習
3	生殖医療（1）—救世主兄弟	救世主兄弟という言葉の意味について調べておく	授業時の要点の復習
4	生殖医療（2）—非配偶者間人工授精	非配偶者間人工授精について調べておく	授業時の要点の復習
5	生殖医療（3）—優生思想	優生思想について調べておく	授業時の要点の復習
6	がん告知とインフォームド・コンセント	インフォームド・コンセントについて調べておく	授業時の要点の復習
7	中絶と胎児の権利	母体保護法について調べておく	授業時の要点の復習
8	能力・肉体の改造	エンハンスメントという言葉の意味について調べておく	授業時の要点の復習
9	終末期医療と安楽死	リビング・ウィルという言葉の意味について調べておく	授業時の要点の復習
10	生体臓器移植	生体臓器移植の現状について調べておく	授業時の要点の復習
11	クローン技術	クローン技術の現状について調べておく	授業時の要点の復習
12	ES 細胞と iPS 細胞	再生医療の現状について調べておく	授業時の要点の復習
13	寿命と永遠の命	日本人の平均寿命の推移について調べておく	授業時の要点の復習
14	脳死と臓器移植	臓器移植法について調べておく	授業時の要点の復習
15	介護における尊厳の保持・自立支援	介護における尊厳の保持・自立支援について考えておく	授業時の要点の復習

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<p><教科書> プリント・DVD を使用します。</p> <p><参考文献> 今井道夫著『生命倫理学入門 [第三版]』（産業図書）</p> <p>加藤尚武・加茂直樹編『生命倫理学を学ぶ人のために』（世界思想社）</p>	<p>授業の終わりにミニ・レポートを書いていただき、その記述内容と学期末試験によって、総合的に成績を評価します。</p> <p>ミニ・レポートの記述内容 50%</p> <p>学期末試験 50%</p>

授業科目	コミュニケーション論					担当者名	早坂 三郎					
サブタイトル	コミュニケーションと人間関係					担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け					
授業形態	講義	履修区分	選択	単位数	2 単位	授業回数 (授業時間)	15 回 (30 時間)	開講時期	II 回生前期			
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	○	社福主任用		フード3級		リトミック	
	保育士		情報処理士	○	医療管秘書		アロマ		ビジ実務士			
授業目的	<p>本講義は、人間理解と情報伝達に必要な基礎的コミュニケーション能力の養成に目的を置く。AI 化・諸領域でのボーダレス化の進展によりコミュニケーションに対する苦手意識が広がっているものの組織及び介護実践などの現場でもコミュニケーション能力は、個々人を尊重した対応とケアを行う上で必須の能力である。人間は群れることを本性の一つとする存在であり、人との関わりの中で成長・発達する。そこで、一人の場合とは異なる認知とこれにもとづく感情・行動への他者や集団の影響、さらにはコミュニケーションの機序を理解し、社会的比較により自己理解を深め利他的態度を養成すること、併せて刺激情報の受容と発信についての理解を深め、組織及び介護現場などにおける人間関係の展開に配慮的行動が出来ることを目指す。</p>											
授業内容/方法	<p>よく聴き・話す双方向的コミュニケーション展開のためのスキルを習得し、他者及び集団の理解と協同する行動への視点と態度の啓培に取り組む。言語及び非言語コミュニケーション、電子メディアやマスメディアなどでのコミュニケーション、またコミュニケーションスキル等について配布資料をもとに解説する。各テーマについての意見発表や話し合いを取り入れる。予習・復習等の詳細についてもテーマ毎に説明する。</p>											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> よく聴くことに重点を置くコミュニケーションの展開のための基礎的内容が理解できる。 人間関係の状況についての理解と新たな捉え方ができる。 対人相互作用の影響と結果を考え、利他的に行動できる。 											

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	授業の目的と内容、進め方及び評価についての説明	シラバスを読む。	これまでのコミュニケーションについて振り返る。
2	人間関係阻害状況とコミュニケーションの重要性	人間関係阻害状況についての配布資料を読み、テーマや用語等を調べる。	人間関係阻害状況の要点を整理する。
3	パーソナリティの理論と測定及び各発達段階の特徴	パーソナリティについての資料を読み、テーマや用語等を調べる。	パーソナリティについての要点を整理する。
4	コミュニケーションの概念と方法及び展開	コミュニケーションについての資料を読み、テーマや用語等を調べる。	コミュニケーションについての要点を整理する。
5	コミュニケーションの構成要素と展開及び言語コミュニケーションについて	言語コミュニケーションの資料を読み、テーマや用語等を調べる。	言語コミュニケーションについての要点を整理する。
6	非言語コミュニケーションの特徴と機能	非言語コミュニケーションの資料を読み、テーマや用語等を調べる。	非言語コミュニケーションの特徴と機能についての要点を整理する。
7	支援におけるコミュニケーション①非言語コミュニケーションの読み取りと対処	非言語コミュニケーションの資料を読み、テーマや用語等を調べる。	非言語コミュニケーションの読み取りと対処の要点を整理する。
8	支援におけるコミュニケーション②傾聴とアサーティブな表現	傾聴とアサーティブな表現の資料を読み、テーマや用語等を調べる。	傾聴とアサーティブな表現についての要点を整理する。
9	支援におけるコミュニケーション③説得及び要請の理論と技法	説得及び要請技法についての資料を読み、テーマや用語等を調べる。	説得及び要請技法についての要点を整理する。
10	集団の構成と機能	集団についての資料を読み、テーマや用語等を調べる。	集団についての要点を整理する。
11	動機づけと耐性及び目的と手段の設定	動機づけと耐性等の資料を読み、テーマや用語等を調べる。	動機づけと耐性等についての要点を整理する。
12	脳の活性化と可塑性のためのコミュニケーション	脳の活性化と可塑性についての資料を読み、テーマや用語等を調べる。	脳の活性化と可塑性についての要点を整理する。
13	社会的スキルズトレーニングの内容と実践	社会的スキルについての資料を読み、テーマや用語等を調べる。	授業内容や資料を整理し、レポート課題に取り組む。
14	支援におけるコミュニケーション④カウンセリング理論とカウンセリングマインド	レポート作成及びカウンセリングの資料を読み、テーマや用語等を調べる。	カウンセリング理論についての要点を整理する。
15	依存と利他的行動	依存と利他的行動についての資料を読み、テーマや用語等を調べる。	添削されたレポートを、指摘を参考に修正する。

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> 授業前に資料を配布する。 <参考文献> テーマに応じて参考文献や資料を紹介する。	試験 60% レポート提出 25% 授業での積極的態度と発表内容 15% 以上から総合的に評価する。

授業科目	臨床心理					担当者名	真崎 由美子				
サブタイトル	こころの健康とその支援					担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け				
授業形態	講義	履修区分	選択	単位数	2単位	授業回数 (授業時間)	15回 (30時間)	開講時期	Ⅱ回生前期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	○	社福主任用		フード3級		リトミック
	保育士	○	情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士		
授業目的	<p>人と関わる際に土台となる人間理解・自己理解や、他者とのコミュニケーションを取る際に基礎となる心理学の知識や技法を学び、こころの健康とその支援について理解を深める。</p> <p>発達の各段階に応じた特徴や心理的課題があること、こころの問題を抱える人に寄り添う援助をするために、どのような態度が必要かを学ぶ。また、介護福祉士を目指す者は、介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報伝達に必要な、コミュニケーション能力を養うための心理理解を深める。</p>										
授業内容/方法	<p>ライフサイクルに沿って、乳幼児期、児童期、思春期・青年期、成人期、中年期、老年期に特有な心の在り方や心理的課題、心の疾患などについて理解する。また、こころの健康とその支援について、具体的な例を通して学び、援助者にとって必要な態度、コミュニケーションについて理解を深める。</p>										
到達目標	<p>1. 人間の心のしくみや人間関係の問題、ストレスについて理解できる。</p> <p>2. 人間のライフサイクルに沿って、各時期に特有な心の在り方、課題を理解できる。</p> <p>3. 人間関係、コミュニケーションに必要なもの、心理的なケアの基本について理解できる。</p>										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	人間の心理的欲求と自己理解	自己理解について学んでおく	自己理解についてのレポート作成
2	人間関係、こころの健康と不適応	人間関係での問題、不適応について調べておく	講義内容について復習し確認する
3	ライフサイクルと心理 乳児期の心	乳児期について調べておく	講義内容について復習し確認する
4	ライフサイクルと心理 幼児期の心	幼児期について調べておく	講義内容について復習し確認する
5	安心できるコミュニケーション	援助者として身につけるべきコミュニケーションについて考える	講義内容について復習し確認する
6	ライフサイクルと心理 児童期の心	児童期について調べておく	講義内容について復習し確認する
7	ライフサイクルと心理 思春期の心	思春期について調べておく	講義内容について復習し確認する
8	ライフサイクルと心理 青年期の心	青年期について調べておく	講義内容について復習し確認する
9	ライフサイクルと心理 成人期の心	成人期について調べておく	講義内容について復習し確認する
10	ライフサイクルと心理 中年期の心	中年期について調べておく	講義内容について復習し確認する
11	ライフサイクルと心理 老年期の心	老年期について調べておく	講義内容について復習し確認する
12	現代のストレスと対象喪失	ストレスについて調べておく	講義内容について復習し確認する
13	性格と家族	性格について考える	講義内容について復習し確認する
14	こころを理解し援助する	心理理解について調べておく	講義内容について復習し確認する
15	心理的ケアに必要な態度と技術	心理的援助について調べておく	講義内容について復習し確認する

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書>適宜プリントを配布する <参考文献>伊藤良子編著『いちばんはじめに読む心理学の本 臨床心理学』（ミネルヴァ書房）	授業中の課題提出 50% 授業中の発表内容 30% 授業への取組態度 20% 以上から総合的に評価する。

授業科目	社会福祉概論					担当者名	田中 昌美					
サブタイトル	社会福祉・社会保障制度の基礎的理解					担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け					
授業形態	講義	履修区分	必修	単位数	2 単位	授業回数 (授業時間)	15 回 (30 時間)	開講時期	I 回生前期			
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	○	社福主任用	◎	フード3級		リトミック	
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士			
授業目的	この講義では、個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解を深めた上で、わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解することをめざす。											
授業内容/方法	本講義では、生活と社会福祉と社会保障との関わりについての理解を深めるため、病気やケガ、失業、加齢など個人が人生で直面する様々な生活のリスクについて、社会福祉や社会保障がどのように対応しているのかを具体的な事例を取り上げ、グループディスカッションを通じて理解を深化させる。											
到達目標	1. 個人、家族、近隣、地域、社会の相互の関連の中で人間の生活のあり方を理解できる。 2. 人々の生活と社会福祉との関連が理解できる。 3. 日本の社会保障制度の概要と歴史が理解できる。											

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	「幸福」とは、「豊かさ」とは	講義概要を確認しておく	グループワークの結果をまとめる
2	自助、互助、共助、公助	自助、互助、共助、公助の概念について事前に調べておく	グループワークの結果をまとめる
3	家族機能の概念、役割	家族の概念について事前に調べておく	配布資料で復習・ノートの整理
4	家族の変容	新聞・書籍等で情報を収集しておく	配布資料で復習・ノートの整理
5	社会保障の理念と価値	テキストの該当箇所を読んでおく	配布資料で復習・ノートの整理
6	社会福祉の歴史	テキストの該当箇所を読んでおく	配布資料で復習・ノートの整理
7	社会福祉・社会保障の仕組み	テキストの該当箇所を読んでおく	配布資料で復習・ノートの整理
8	年金保険の概要	テキストの該当箇所を読んでおく	配布資料で復習・ノートの整理
9	医療保険の概要	テキストの該当箇所を読んでおく	配布資料で復習・ノートの整理
10	介護保険の概要	テキストの該当箇所を読んでおく	配布資料で復習・ノートの整理
11	労働保険の概要	テキストの該当箇所を読んでおく	配布資料で復習・ノートの整理
12	生活保護・社会手当の概要	テキストの該当箇所を読んでおく	配布資料で復習・ノートの整理
13	障害者福祉	テキストの該当箇所を読んでおく	配布資料で復習・ノートの整理
14	社会福祉の政策と課題	育児・介護休業法のあらましについて調べておく	授業時の要点を復習する
15	社会福祉の今後の方向性について	新聞・書籍等で情報を収集しておく	グループワークの結果をまとめる

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> いたう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！介護福祉士国試ナビ 2018』（中央法規出版） 教科書に記載のない図表等は適宜プリントを配布する	定期試験 60% 小テスト 20% 授業への取組態度 20% により、総合的に評価する

授業科目	福祉制度論				担当者名	田中 昌美				
サブタイトル	介護実践に関する諸制度				担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け				
授業形態	講義	履修区分	選択	単位数	2 単位	授業回数 (授業時間)	15 回 (30 時間)	開講時期	Ⅱ 回生後期	
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	社福主任用	○	フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書	アロマ		ビジ実務士		
授業目的	介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者総合支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得することをねらいとする。さらに本講義では、介護実践に必要なとされる観点から、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する。									
授業内容/方法	本講義では、介護を必要とする人の生活を支える介護保険制度、障害者総合支援制度、成年後見制度等について、諸制度の理念と仕組みについての知識を教授した上で、介護実践の事例における諸制度の活用についてグループディスカッションを通じて理解を深化させる。									
到達目標	1. 介護保険制度の理念と仕組みが理解できる。 2. 障害者総合支援法の理念と仕組みが理解できる。 3. 個人情報の保護や成年後見制度等の諸制度の基礎知識について説明できる。									

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	社会保障の理念の変遷	社会福祉概論、介護の基本のⅡで学んだ内容を確認しておく	ノートの整理
2	社会保障の給付と負担	配布資料を確認し、グループワークの準備をしておく	グループワークの内容を整理する
3	介護保険制度の創設の背景と目的	社会福祉概論、介護の基本のⅡで学んだ内容を確認しておく	ノートの整理
4	介護サービス利用までの流れ	社会福祉概論、介護の基本のⅡで学んだ内容を確認しておく	配布資料で復習・ノートの整理
5	介護サービスの種類と内容	配布資料とテキストの該当箇所を読んでおく	配布資料で復習・ノートの整理
6	社会福祉基礎構造改革と障害者施策	配布資料を確認し、グループワークの準備をしておく	グループワークの内容を整理する
8	障害者総合支援法の概要	配布資料とテキストの該当箇所を読んでおく	配布資料で復習・ノートの整理
9	障害福祉サービス利用の流れ	配布資料とテキストの該当箇所を読んでおく	配布資料で復習・ノートの整理
10	障害福祉サービスの種類・内容	配布資料とテキストの該当箇所を読んでおく	配布資料で復習・ノートの整理
11	高齢者保健医療制度	配布資料とテキストの該当箇所を読んでおく	配布資料で復習・ノートの整理
12	成年後見制度と日常生活自立支援事業	配布資料とテキストの該当箇所を読んでおく	配布資料で復習・ノートの整理
13	介護サービス情報の公表	事前に「介護サービス情報の公表」を閲覧しておく	配布資料で復習・ノートの整理
14	育児・介護休業法	育児・介護休業法のあらましについて調べておく	授業時の要点を復習する
15	利用者の個人情報保護に関わる仕組み	配布資料とテキストの該当箇所を読んでおく	配布資料で復習・ノートの整理

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！介護福祉士国試ナビ2019』（中央法規出版） 教科書に記載のない図表等については適宜資料を配布する。	定期試験 80% 授業への取組態度 20% により、総合的に評価する。

授業科目	園芸Ⅰ				担当者名	山本 俊光、原 千明					
サブタイトル	生活に活かす園芸				担当形態	単独 <u>複数</u> オムニバス クラス分け					
授業形態	実習	履修区分	選択	単位数	1 単位	授業回数 (授業時間)	15 回 (30 時間)	開講時期	I 回生前期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	◎	社福主任用		フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士		
授業目的	本実習では植物の基礎的な栽培および植物を活かす方法を学び、栽培の基礎的な技能を習得する。介護及びすべての人が豊かで、彩ある楽しい生活を設計する力、そして他者とのコミュニケーション能力を養うための学習を行う。										
授業内容/方法	日常生活においても手軽で安価に実践できるような植物栽培法を体験し、植物の生長を楽しみにし、その過程を見守る力や心のゆとりを養う。植物カードの作成により、のちに活用できるツールとする。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 植物栽培の基礎的な流れが理解できる。 2. 植物の観察や記録、調査を通して植物の特性を理解する。 3. 班で協力して栽培活動を行う。 										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	ガイダンス・土づくりから	講義概要に目を通す	本実習が求める学生像を確認する
2	畑の計画	夏に育つ作物を調べておく	畑で育てる植物の下調べをする
3	播種の基本を学ぶ	発芽に必要な環境を理解する	播種の方法の違いは何が要因か調べる
4	定植の基本を学ぶ	ミニトマトについて調べておく	ミニトマトの植物カードに書き込む
5	さし芽の基本を学ぶ	不定芽・不定根について調べておく	植物カードの作成の作成
6	フラワーフェスティバル in 西宮の準備	ボランティアの意味を理解し準備を行う	ボランティアにおける役割を理解する
7	フィールドワーク フラワーフェスティバル in 西宮の参加	ボランティアの意義を考える	レポートを作成する
8	寄せ植えの基本を学ぶ	寄せ植えに適した植物を調べておく	植物カードの作成
9	ハンギングバスケットの基本を学ぶ	ハンギングバスケットに適した植物を調べておく	植物カードの作成
10	定植後の手入れの仕方を学ぶ	芽かき、追肥、増し土などの方法について調べておく	植物カードの作成
11	小テスト	これまでの園芸活動を振り返る	用語の確認
12	hidroカルチャーの基本を学ぶ	hidroカルチャーについて調べておく	植物カードの作成
13	前期のまとめ	植物カードの見直し	植物カードの完成
14	草木染の基本を学ぶ(1)	草木染について調べておく	植物カードの作成
15	草木染の基本を学ぶ(2)	草木染の手順を振り返る	レポートを作成する

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> 適宜プリントを配布	植物カード 30% 提出課題 40% 授業への取組態度 30% 以上から総合的に評価する。

授業科目	園芸Ⅱ					担当者名	山本 俊光、原 千明				
サブタイトル	生活に活かす力を伸ばす					担当形態	単独	複数	オムニバス クラス分け		
授業形態	実習	履修区分	選択	単位数	1単位	授業回数 (授業時間)	15回 (30時間)	開講時期	I回生後期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	◎	社福主任用		フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士		
授業目的	園芸Ⅰで習得したスキルを確認し、さらに表現する力を伸ばす。自分なりに暮らしや介護現場で園芸を取り入れていけるような力を養う。										
授業内容/方法	園芸Ⅰと同様の観点から、手軽で安価に実践できるような植物栽培法を体験する。植物の生長過程が分かり、一年を通してどのような植物がいつ育ち、どのような手入れが必要か基礎的な手順が理解できるようにする。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 植物の栽培方法の基礎的な流れがわかる。 2. 植物の観察と記録についてポイントを押さえて書き記すことができる。 3. 暮らしや介護現場でどのように植物を取り入れていけばよいか見通すことができる。 										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	ガイダンス	講義概要を持参する	本実習が求める学生像を確認する
2	圃場に秋野菜の植え付け	秋に育てる作物を調べる	植物カードの作成
3	大学祭で日ごろの成果を見せよう	大学祭で販売する植物を考える	どのような商品の見せ方がよいか考える
4	コメは何粒できていたか数えよう	収穫後の米の取り扱いを調べる	植物カードの作成
5	来年のためにイチゴ苗を定植しよう	オランダイチゴの特徴や育て方を調べる	植物カードの作成
6	ラッカセイの実りを観察しよう	共生菌について調べておく	植物カードの作成
7	秋の寄せ植えをしよう	秋の植物の特性と美しい配色について調べておく	植物カードの作成
8	フィールドワーク 西宮市北山緑地植物園	西宮市植物生産研究センターの取り組みを調べる	メモや写真の確認
9	フィールドワーク 西宮市北山緑地植物園	西宮市北山緑地植物園にある植物を調べる	レポートの作成
10	サツマイモはどこを食べるのか理解しよう	美味しい食べ方を調べる	植物カードの作成
11	来春に収穫する作物を植えよう	春に収穫する作物について調べる	植物カードの作成
12	葉菜類を収穫しよう	収穫時期、食べごろなどを調べる	植物カードの作成
13	盆栽づくりを学ぶ	盆栽の特性と扱い方を調べる	植物カードの作成
14	収穫祭を計画しよう	収穫できそうな作物を点検し、どのような食べ方がよいか調べる	植物カードの作成
15	収穫祭	これまでの栽培法や植物の特性を振り返る	感想文の提出

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> 適宜プリントを配布	植物カード 40% 確認テスト 40% 授業への取組態度 20%

授業科目	キャリアキャッチ演習				担当者名	永藤 清子					
サブタイトル	適職の選択と準備				担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け					
授業形態	演習	履修区分	必修	単位数	2単位	授業回数 (授業時間)	15回 (30時間)	開講時期	I 回生前期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士		社福主任用		フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士		
授業目的	<p>生産技術と情報技術の革新による社会・経済そして産業的環境のボーダレス化及び日本の超高齢少子化現象は、職業の選択や日常生活にも大きな変化をもたらせ、生涯を通してのキャリア発達についても自己理解と併せて職の世界の理解に基づき形成することが求められている。</p> <p>社会の構成員としてのマナー並びに職業人としての専門性を兼ね備えた教育と学び続ける意欲の涵養、そして福祉と地域社会についての理解から、自らの意思により努力し、誠実で協同意識を持ち、客観的に考察し、職業選択できる態度を育む。</p>										
授業内容/方法	<p>生涯に亘って学び続ける社会状況、人間関係とコミュニケーションのスキル及び誠実さの重要性に基づく自己理解を目指す。特に超高齢化の中にあって福祉に関する知識とスキルを基盤に、客観的に企業と社会情勢を理解し、協同の重要性について学ぶ。</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の特性と希望の職種について情報を収集し、適性について理解できる。 2. 人間関係とコミュニケーションスキルによる社会的自立について理解し、行動できる。 3. 企業及び社会について多角的に情報収集し、客観的に分析・考察し、誠実に行動できる。 										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	授業目的と内容、進め方及び評価	シラバスを読んでおく。	ニュースや関心事の整理。
2	経済の発達と人間関係の変容	新聞記事・配布資料を読み、関連事項や用語などを調べておく。	授業の要点を整理する。
3	個人の尊厳と倫理	新聞記事・配布資料を読み、関連事項や用語などを調べておく。	授業の要点を整理する。
4	障害に関する基礎的知識	新聞記事・配布資料を読み、関連事項や用語などを調べておく。	授業の要点を整理する。
5	人生の目標と達成手段について	新聞記事・配布資料を読み、関連事項や用語などを調べておく。	授業の要点を整理する。
6	自己理解と動機づけ	新聞記事・配布資料を読み、関連事項や用語などを調べておく。	授業の要点を整理する。
7	集団の構造と機能	新聞記事・配布資料を読み、関連事項や用語などを調べておく。	授業の要点を整理する。
8	日本企業の特徴と危機管理	新聞記事・配布資料を読み、関連事項や用語などを調べておく。	授業の要点を整理する。
9	職種と適性について	新聞記事・配布資料を読み、関連事項や用語などを調べておく。	授業の要点を整理する。
10	キャリア発達と職業選択	新聞記事・配布資料を読み、関連事項や用語などを調べておく。	授業の要点を整理する。
11	企業が求める人材像（コミュニケーションと人間関係）	新聞記事・配布資料を読み、関連事項や用語などを調べておく。	授業の要点を整理する。
12	自己管理とストレス	新聞記事・配布資料を読み、関連事項や用語などを調べておく。	授業の要点を整理する。
13	ワークライフバランス	新聞記事・配布資料を読み、関連事項や用語などを調べておく。	授業の要点を整理し、レポートを作成する。
14	災害と高齢少子化	新聞記事・配布資料を読み、関連事項や用語などを調べておく。	これまでの要点を整理する。
15	企業の倫理観	新聞記事・配布資料を読み、関連事項や用語などを調べておく。	レポートを指摘に従い修正する。

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準	
<教科書> 授業時に資料を配布する。 また、テーマに応じて参考文献や資料を紹介する。	定期試験	60%
	レポート	25%
	小テスト及び授業への参加態度	15%
	以上から総合的に評価する。	

授業科目	介護概論（介護福祉フィールド）				担当者名	中村 美智代				
サブタイトル	生活と介護				担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け				
授業形態	講義	履修区分	選択	単位数	2単位	授業回数 (授業時間)	15回 (30時間)	開講時期	I回生前期	
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	社福主任用	◎	フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書	アロマ		ビジ実務士		
授業目的	<p>「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。</p> <p>そこで、本授業では高度化・多様化する介護ニーズに対応できる資質とともに、人を慈しむところと自分を律する姿勢を醸成する。また、介護福祉士を取り巻く状況を理解し、介護福祉士の役割と機能を支えるしくみを習得する。</p>									
授業内容/方法	<p>介護を必要とする人を生活の視点でとらえ、介護福祉の専門性や理念について考える。また、社会福祉士及び介護福祉士法を用いて、介護福祉士の定義や義務規定について学ぶ。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉士及び介護福祉士法による介護福祉士の定義や義務規定が理解できる。 2. 生活の視点から、尊厳を支える介護とは何かが理解できる。 3. 関連する職種との連携の必要性が理解できる。 									

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	介護とは何か	テキストの巻頭言・目次に目を通しておく	授業の内容を整理する
2	生活の理解	自分の日々の生活について振り返っておく	授業の内容を整理する
3	我が国の介護の歴史	テキストを読んでおく	授業の内容を整理する
4	介護を取り巻く社会の状況	テキストを読んでおく	授業の内容を整理する
5	介護を必要とする高齢者の理解	テキストを読んでおく	授業の内容を整理する
6	介護を必要とする障害者の理解	テキストを読んでおく	授業の内容を整理する
7	介護に必要なICFの視点	テキストを読んでおく	授業の内容を整理する
8	介護福祉士制度の理解	テキストを読んでおく	授業の内容を整理する
9	社会福祉士及び介護福祉士法 (介護福祉士の定義)	テキストを読んでおく	授業の内容を整理する
10	社会福祉士及び介護福祉士法 (介護福祉士の義務規定)	テキストを読んでおく	授業の内容を整理する
11	介護の原則（職業倫理）	テキストを読んでおく	授業の内容を整理する
12	介護の原則（自立生活の支援）	テキストを読んでおく	授業の内容を整理する
13	介護の原則（自己実現の支援）	テキストを読んでおく	授業の内容を整理する
14	多職種連携の意義と目的	テキストを読んでおく	授業の内容を整理する
15	介護福祉士の専門性	自分の介護観をまとめておく	ノートの整理をしておく

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書>介護福祉士養成講座編集委員会『介護の基本Ⅰ』（中央法規）、介護福祉士養成講座編集委員会『介護の基本Ⅱ』（中央法規）、いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！介護福祉士国試ナビ2018』中央法規出版	定期試験 60% 小テスト・レポート 30% 授業への取組態度 10% 以上から総合的に評価する。

授業科目	介護の基本 I					担当者名	落合 利香				
サブタイトル	介護サービス提供の場					担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け				
授業形態	講義	履修区分	選択	単位数	2 単位	授業回数 (授業時間)	15 回 (30 時間)	開講時期	I 回生前期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	社福主任用	○	フード 3 級		リトミック	
	保育士		情報処理士		医療管秘書	アロマ		ビジ実務士			
授業目的	<p>「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。</p> <p>公衆衛生・医療の発達に伴い、我が国は急激な長寿社会となった。また女性の社会進出や都市集中化に伴い、核家族化、少子化を招いた。その結果、介護が必要な高齢者が増加し、家族介護では賄いきれず、様々な介護サービスが展開されるようになった。そこで居宅や施設で提供されている介護サービス提の特性を理解し、介護福祉士の専門性と役割について理解を深める。</p>										
授業内容/方法	<p>介護実習の進捗に合わせて、介護保険の概要、居宅サービスや施設サービスの特性やその内容、給付の特性を理解して、各サービス提供の場での介護福祉士の果たす役割について考える。</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護保険制度の概要が理解できる。 2. 介護保険制度の居宅サービス・施設サービス・地域密着型サービスの種類とその特性が理解できる。 3. サービスの特性から個別ケアのあり方を考えることができる 										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	介護サービス提供の場を理解する目的	実習の手引きを確認しておく	授業時の要点について復習する
2	日常生活の中で介護が必要な状況	介護が必要な状況を考える	授業時の要点について復習する
3	事業所を理解するための概要	「概要」について調べておく	授業時の要点について復習する
4	介護保険制度の枠組み	介護保険制度のサービスの種類について教科書を読んでおく	授業時の要点について復習する
5	居宅サービス①訪問介護	訪問系サービスについて調べておく	授業時の要点について復習する
6	居宅サービス②通所介護	通所系サービスについて調べておく	授業時の要点について復習する
7	居宅サービス③短期入所・訪問入浴	入所系サービスについて調べておく	授業時の要点について復習する
8	居宅サービス④特定施設入所者生活介護	有料老人ホームについて調べておく	授業時の要点について復習する
9	地域密着型サービス①認知症対応型共同生活介護	認知症の特性について調べておく	授業時の要点について復習する
10	地域密着型サービス②小規模多機能型サービス	小規模多機能型サービスについて調べておく	授業時の要点について復習する
11	施設サービス①特別養護老人ホーム	終生施設と中間施設の違いについて調べておく	授業時の要点について復習する
12	施設サービス②介護老人保健施設	在宅復帰について調べておく	授業時の要点について復習する
13	施設サービス③介護療養型施設	医療的ケアについて調べておく	授業時の要点について復習する
14	施設概要の記録	記録の書き方について復習しておく	施設概要の記録を清書する
15	施設概要からみた介護者の役割	各事業所の特性を復習しておく	施設概要の記録について復習する

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> 介護福祉士養成講座編集委員会編集『介護の基本Ⅱ』（中央法規出版）、いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！介護福祉士国試ナビ 2018』（中央法規出版）	定期試験 60% 小テスト・レポート 30% 授業への取組態度 10% 以上から総合的に評価する。

授業科目	介護の基本Ⅱ					担当者名	田中 昌美				
サブタイトル	高齢者・障害者の生活を支える諸制度とサービス					担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け				
授業形態	講義	履修区分	選択	単位数	2単位	授業回数 (授業時間)	15回 (30時間)	開講時期	I 回生後期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	社福主任用	○	フード3級		リトミック	
	保育士		情報処理士		医療管秘書	アロマ		ビジ実務士			
授業目的	「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」「障害のある人」を、生活の観点から捉え、生活を支える介護サービスの内容と種類、諸制度についての理解を深める。										
授業内容/方法	介護を必要とする人、障害のある人の生活ニーズと、生活を支える基盤（各種年金制度、生活保護、介護保険）について学んだ上で、実際に生活を支える種々の制度・サービスがどのように活用されているかについて、事例検討やグループワーク通じて主体的に学ぶ。										
到達目標	1. 介護を必要とする人の生活 2. 障害者総合支援法の理念と概要が理解できる。 3. サービス利用の流れが理解できる。										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	生活と福祉との関わり	授業概要を確認しておく	ノートの整理
2	福祉に対する考え方の変遷	社会福祉概論で学んだ内容を復習しておく	配布資料で復習・ノートの整理
3	介護を必要とする人の生活理解 ①家族・世帯構成、生計、役割	配布資料の確認とグループワークの準備	グループワークの内容を整理
4	介護を必要とする人の生活の理解 ②社会参加・余暇活動	配布資料の確認とグループワークの準備	グループワークの内容を整理
5	介護を必要とする人の生活の理解 ③個別ニーズについて	配布資料の確認とグループワークの準備	グループワークの内容を整理
6	年金保険の体系	社会福祉概論で学んだ内容を復習しておく	配布資料で復習・ノートの整理
7	年金保険の給付内容	社会福祉概論で学んだ内容を復習しておく	配布資料で復習・ノートの整理
8	介護保険の体系	社会福祉概論で学んだ内容を復習しておく	グループワークの内容を整理
9	介護保険の仕組み	社会福祉概論で学んだ内容を復習しておく	配布資料で復習・ノートの整理
10	介護サービスの種類	社会福祉概論で学んだ内容を復習しておく	配布資料で復習・ノートの整理
11	生活保護制度の原理・原則	社会福祉概論で学んだ内容を復習しておく	配布資料で復習・ノートの整理
12	生活保護制度の保護の種類と内容	社会福祉概論で学んだ内容を復習しておく	配布資料で復習・ノートの整理
13	少子高齢化と人口減少	新聞・雑誌・書籍等で情報を収集しておく	グループワークの内容を整理
14	地域連携の意義と目的	新聞・雑誌・書籍等で情報を収集しておく	配布資料で復習・ノートの整理
15	地域包括支援センターの機能と役割	新聞・雑誌・書籍等で情報を収集しておく	配布資料で復習・ノートの整理

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！介護福祉士 国試ナビ 2018』中央法規出版 教科書に記載のない図表等は適宜資料を配布する。	定期試験 60% 小テスト 20% 授業への取組態度 20% により、総合的に評価する。

授業科目	介護の基本Ⅲ				担当者名	田中 昌美、高野 恵子、中村 美智代				
サブタイトル	介護を必要とする人の理解				担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け				
授業形態	講義	履修区分	選択	単位数	2 単位	授業回数 (授業時間)	15 回 (30 時間)	開講時期	Ⅱ 回生前期	
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	社福主任用	○	フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書	アロマ		ビジ実務士		
授業目的	介護を必要とする人の身体機能と生活、安全の確保とリスクマネジメント、暮らしを支える制度について理解を深め、利用者主体・自立支援を基盤とした支援に必要な幅広い知識、思考を養うことを目的とする。									
授業内容/方法	授業はオムニバス形式とし、心身機能と生活、安全の確保とリスクマネジメント、暮らしを支える制度という主に3つの観点から介護を必要とする人に対する理解を深める。授業では、講義とグループディスカッション等を通じて介護を必要とする人の多面的理解の方法について学ぶ。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護を必要とする人の健康と生活の支援について理解できる。 2. 介護実践における安全の確保とリスクマネジメントが理解できる。 3. 介護を必要とする人を支える諸制度について理解できる。 									

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	介護における安全の確保とリスクマネジメントの意義 (中村)	リスクマネジメントについて調べる	授業時の要点について復習する
2	ケアの質の向上とリスクマネジメント (中村)	事前配布したレポートに取り組む	授業時の要点について復習する
3	安全確保のためのリスクマネジメント (中村)	身体拘束について調べる	授業時の要点について復習する
4	事故防止、安全対策のためのリスクマネジメント (中村)	事故とヒヤリハットについて調べる	授業時の要点について復習する
5	生活の中のリスクと対応 (中村)	事前配布したレポートに取り組む	授業時の要点について復習する
6	介護を必要とする人の健康と生活 (人間の多様性・複雑性の理解) (高野)	発達と老化Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を復習しておく	授業時の要点について復習する
7	介護を必要とする人の健康と生活 (老化とからだ) (高野)	発達と老化Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を復習しておく	授業時の要点について復習する
8	介護を必要とする人の健康と生活 (老化とこころ) (高野)	発達と老化Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を復習しておく	授業時の要点について復習する
9	介護を必要とする人の健康と生活 (生活環境の整備) (高野)	発達と老化Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を復習しておく	授業時の要点について復習する
10	介護を必要とする人の健康と生活 (健康長寿の考え方) (高野)	発達と老化Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を復習しておく	授業時の要点について復習する
11	少子高齢化と人口減少 (田中)	わが国の少子高齢化の現状について調べておく	授業時の要点について復習する
12	家族役割と機能の変化 (田中)	家族の役割について考えておく	グループワークの内容をまとめる
13	ライフスタイルの変化 (田中)	自身にとって望ましいライフスタイルについて考えておく	グループワークの内容をまとめる
14	介護の社会化とは (田中)	配布資料を読み、グループワークの準備をしておく	グループワークの内容をまとめる
15	介護保険制度の基本理念 (田中)	配布資料を読んでおく	授業時の要点について復習する

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書>いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！介護福祉士国試ナビ 2017』中央法規出版 教科書に記載のない図表等については適宜プリントを配布する。	定期試験 60% 小テスト 30% 授業への取組態度 10% により総合的に評価する。

授業科目	介護の基本Ⅳ				担当者名	田中 昌美、高野 恵子、中村 美智代			
サブタイトル	求められる介護福祉士像に向けて				担当形態	単独	複数	オムニバス	クラス分け
授業形態	講義	履修区分	選択	単位数	4単位	授業回数 (授業時間)	30回 (60時間)	開講時期	Ⅱ回生後期
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	社福主任用	○	フード3級	リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書	アロマ		ビジ実務士	
授業目的	<p>「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。そこで、本授業では介護福祉士を目指す人が介護現場で必要とされる基本的な知識を習熟し、介護を必要とする人の理解を深めるために、人権や尊厳について真摯に向き合うことのできる資質を醸成する。</p>								
授業内容/方法	<p>授業はオムニバス形式とし、高齢者の自立と健康的な生活を支援するために必要な対策や、介護実践における知識・技術、多職種連携の3つの視点について学ぶ。</p>								
到達目標	<p>1. 介護を必要とする人のくらしと生活環境について理解できる。 2. 自立支援の具体的展開について理解できる。 3. 介護実践における役割や連携の意義が理解できる。</p>								

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1・2	生活支援と福祉・介護保険の現状と課題 (田中)	介護保険制度の理念と体系について復習しておく	授業時の要点を復習する
3・4	介護実践における地域連携・地域包括支援センターの機能と役割①権利擁護 (田中)	地域包括支援センターの目的・人員基準について調べておく	授業時の要点を復習する
5・6	地域包括支援センターの機能と役割②虐待防止・地域包括支援センターの機能と役割③介護予防ケアマネジメント (田中)	事前に配布した資料により予習しておく	授業時の要点を復習する
7・8	地域包括ケアシステムの実現に向けて・年金保険の給付と負担 (田中)	地域包括ケアシステムの構成要素について調べておく	授業時の要点を復習する
9・10	生活保護制度の課題・生活困窮者に対する自立支援 (田中)	生活保護の原理および原則について復習しておく	授業時の要点を復習する
11・12	生活機能に影響する健康状態 (高野)	ICFの健康状態の概念を復習しておく	授業時の要点を復習する
13・14	生活機能に影響する環境因子・個人因子と自立支援 (高野)	ICFの環境因子・個人因子について復習しておく	授業時の要点を復習する
15・16	心身機能・身体構造の確認 (脳神経系など) (高野)	こころとからだのしくみⅠ・Ⅱで学んだ内容を復習しておく	授業時の要点を復習する
17・18	心身機能・身体構造の確認 (消化器系など) (高野)	こころとからだのしくみⅠ・Ⅱで学んだ内容を復習しておく	授業時の要点を復習する
19・20	心身機能・身体構造の確認 (感覚器系など) (高野)	こころとからだのしくみⅠ・Ⅱで学んだ内容を復習しておく	授業時の要点を復習する
21・22	リハビリテーションの理念・領域と役割など (中村)	リハビリテーション、ICFの環境因子・個人因子の概念を復習しておく	授業時の要点を復習する
23・24	リハビリテーション介護・障害別リハビリテーションの実際 (中村)	事前に配布したレポートを仕上げる	授業時の要点を復習する
25・26	リハビリテーションと多職種連携 (中村)	専門職について調べておく	授業時の要点を復習する
27・28	介護従事者の健康管理の意義と目的 (中村)	健康管理・労働安全対策について考えをまとめておく	授業時の要点を復習する
29・30	安心して働ける環境づくり (ストレスマネジメントと腰痛予防対策など) (中村)	安心して働ける環境について考えをまとめておく	授業時の要点を復習する

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準	
<教科書>いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！介護福祉士国試ナビ2018』（中央法規）、適宜、資料を配布する。	定期試験	60%
	小テスト	30%
	授業への取組態度	10%により、総合的に評価する。

授業科目	コミュニケーション技術Ⅰ				担当者名	中村 美智代				
サブタイトル	コミュニケーションの基本				担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け				
授業形態	演習	履修区分	選択	単位数	2単位	授業回数 (授業時間)	15回 (30時間)	開講時期	Ⅰ回生前期	
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	社福主任用	○	フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		初級園福士	医療管秘書		アロマ		ビジ実務士
授業目的	<p>介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身に付けるための学習とする。</p> <p>求められる介護福祉像に向けて、人間の理解や他者へ情報の伝達など、基礎的なコミュニケーション力を習得する。</p> <p>介護実践の場面で必要なコミュニケーションの理解と実践力を養う。</p>									
授業内容/方法	<p>人間関係とコミュニケーションについての基礎理論、介護におけるコミュニケーションの基本、介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション技術や介護におけるチームのコミュニケーション、コミュニケーションマナーについて演習を通して実践し、自己を客観的に捉えることを学ぶ。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの意義と目的を説明することができる。 2. 介護福祉士に求められるコミュニケーション技術とは何かを説明することができる。 3. 習得したコミュニケーション技術を実践できる。 									

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	介護におけるコミュニケーションとその役割	コミュニケーションとその役割について教科書を読んでおく	授業時の要点について復習しておく
2	介護における生活支援とコミュニケーション	生活支援とコミュニケーションについて教科書を読んでおく	授業時の要点について復習しておく
3	話を聞く技法	話を聞く技法について教科書を読んでおく	授業時の要点について復習しておく
4	利用者の感情表現を察する技法	利用者の感情表現を察する技法について教科書を読んでおく	授業時の要点について復習しておく
5	利用者の納得と同意を得る方法	利用者の納得と同意を得る方法について教科書を読んでおく	授業時の要点について復習しておく
6	質問の技法	質問の技法について教科書を読んでおく	授業時の要点について復習しておく
7	相談・助言・指導の技法	相談・助言・指導の技法について教科書を読んでおく	授業時の要点について復習しておく
8	利用者の意欲を引き出す技法	利用者の意欲を引き出す技法について教科書を読んでおく	授業時の要点について復習しておく
9	利用者と家族の意向を調整する技法	利用者と家族の意向を調整する技法について教科書を読んでおく	授業時の要点について復習しておく
10	コミュニケーション障害の理解と利用者への対応	個別の利用者対応について、教科書を読んでおく	授業時の要点について復習しておく
11	介護におけるチームのコミュニケーション ① 記録	記録について教科書を読んでおく	授業時の要点について復習しておく
12	介護におけるチームのコミュニケーション ② 会議	会議について教科書を読んでおく	授業時の要点について復習しておく
13	介護におけるコミュニケーションマナー	コミュニケーションマナーについて調べておく	授業時の要点について復習しておく
14	プロセスレコードを通してのコミュニケーションの理解 ①	プロセスレコードについて調べておく	授業時に指示したテーマのレポートを作成する
15	プロセスレコードを通してのコミュニケーションの理解 ②	プロセスレコードの書き方について確認しておく	授業時に指示したテーマのレポートを作成する

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> 介護福祉士養成講座編集委員会編集『新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術』(中央法規出版) いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える!介護福祉士国試ナビ2018』(中央法規出版)	定期試験 50% 小テスト・レポート 20% 授業への取組態度 30% 以上から総合的に評価する。

授業科目	コミュニケーション技術Ⅱ				担当者名	山下 美子、安田 真之					
サブタイトル	手話と点字の活用				担当形態	単独	複数	オムニバス	クラス分け		
授業形態	演習	履修区分	選択	単位数	2 単位		授業回数 (授業時間)	15 回 (30 時間)	開講時期	Ⅱ 回生前期	
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士		社福主任用	○	フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士		
授業目的	<p>介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。</p> <p>コミュニケーションは、人として生き、生活する上で欠かすことはできない。介護福祉士は聴覚や視覚に障害をもつ人に対しても相互理解の上で生活の支援を行う。そこで、障害を持つ人との意思伝達の方法を学び実践できる力を養うとともに、自立や人権について考える機会とする。</p>										
授業内容/方法	<p>聴覚・視覚に障害がある人にとって重要なコミュニケーション手段である手話と点字の必要性を理解する。手話の基礎知識と方法を学び、点字による文章の作成や点字を読む練習を行う。また、個々の状態に応じたコミュニケーション力を養う。</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚・障害に障害がある人の心理に配慮した態度・姿勢を習得することができる。 2. 手話で自己紹介及び挨拶、基本的な会話ができる。 3. 点字で基本的な文章の読み書きができる。 										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	手話で話してみよう（挨拶）（山下）	聴覚障害について復習しておく	授業で学んだ手話を復習する
2	手話で話してみよう（名前、年齢、職業）（山下）	前回の授業で学んだ手話を覚えておく	授業で学んだ手話を復習する
3	手話で話してみよう（趣味、特技）（山下）	前回の授業で学んだ手話を覚えておく	授業で学んだ手話を復習する
4	聴覚に障害のある人とのコミュニケーションの実際（山下）	聴覚に障害がある人の生活について復習しておく	授業で学んだ手話を復習する
5	聴覚に障害のある人の生活の理解（1日・1週間の流れ）（山下）	前回の授業で学んだ手話を覚えておく	授業で学んだ手話を復習する
6	手話で話してみよう（1日・1週間の流れ）（山下）	前回の授業で学んだ手話を覚えておく	授業で学んだ手話を復習する
7	手話で話してみよう（1年の流れ）（山下）	前回の授業で学んだ手話を覚えておく	授業で学んだ手話を復習する
8	手話で話してみよう（日常生活での会話）（山下）	前回の授業で学んだ手話を覚えておく	授業で学んだ手話を復習する
9	視覚障害者の生活と点字(1)（安田）	視覚障害者の生活について復習しておく	授業で学んだ内容を復習する
10	点字の仕組みと50音、濁音、半濁音の書き方（安田）	視覚障害者の生活について復習しておく	授業で学んだ点字を復習する
11	拗音と分かち書き文章の書き方（安田）	前回までの授業で学んだ点字を覚えておく	授業で学んだ点字を復習する
12	数字の書き方（安田）	前回までの授業で学んだ点字を覚えておく	授業で学んだ点字を復習する
13	アルファベットの書き方（安田）	前回までの授業で学んだ点字を覚えておく	授業で学んだ点字を復習する
14	手紙の書き方（安田）	前回までの授業で学んだ点字を覚えておく	授業で学んだ内容を復習する
15	視覚障害者の生活と点字の役割(2)（安田）	視覚障害者の生活について復習しておく	授業で学んだ内容を復習する

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書>なし。適宜、資料を配布する。	<p>手話 50% （手話実技 40%、演習への取組態度 10%）</p> <p>点字 50% （授業内課題 40%、演習への取組態度 10%）</p> <p>以上から総合的に評価する。</p>

授業科目	生活支援技術概論					担当者名	永藤 清子、原 千明、守野 美佐子				
サブタイトル	家庭生活の基本機能					担当形態	単独	複数	オムニバス	クラス分け	
授業形態	講義	履修区分	必修	単位数	2単位	授業回数 (授業時間)	15回 (30時間)	開講時期	Ⅱ回生前期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	社福主任用		フード3級		リトミック	
	保育士		情報処理士		医療管秘書	アロマ		ビジ実務士			
授業目的	<p>家族・家庭の変容が著しい現代にあって、介護に関わる人は家族や家庭の現状を知ることが重要である。ここでは、家庭生活の機能を理解する。加えて、仲間を大切にコミュニケーションを十分にとり、力を合わせて行う重要性を理解する。</p>										
授業内容/方法	<p>高齢者の消費生活については講義と演習形式で授業を行う。</p>										
到達目標	<p>1. 家庭生活における生活支援が理解できる。 2. 高齢者を取り巻く生活経済環境が理解できる。 3. 宿泊実習を通じて仲間との共同の重要性が理解できる。</p>										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	生活支援の考え方（永藤・守野）	教科書を読む	ノートを整理する
2	家庭生活の基本機能（守野）	教科書を読む	ノートを整理する
3	家族の類型と変化（守野）	教科書を読む	ノートを整理する
4	高齢者の消費者問題（守野）	消費者問題の新聞記事を読む	ノートを整理する
5	高齢者の消費者問題と法律（守野）	消費者問題の新聞記事を読む	ノートを整理する
6	高齢者の消費者問題の課題（守野）	消費者問題の新聞記事を読む	ノートを整理する
7	宿泊実習に向けて 献立（原・守野）	宿泊実習要項を読む	記録を書く
8	宿泊実習に向けて 役割と分担（原・守野）	宿泊実習要項を読む	記録を書く
9	宿泊実習 宿泊環境整備（守野）	宿泊実習要項を読む	記録を書く
10	宿泊実習 食材の調達（守野）	献立の確認をする	記録を書く
11	宿泊実習 高齢者のための調理（守野）	調理方法を確認する	記録を書く
12	宿泊実習 施設での食事提供（守野）	介護施設での食事場面を考える	記録を書く
13	宿泊実習 バリアフリー演習・討議（守野）	介護施設での環境を考える	記録を書く
14	宿泊実習 地域の環境（ごみ）（守野）	西宮市の環境ルールを確認する	記録を書く
15	宿泊実習 成果と課題（守野）	成果と課題を整理する	記録・課題整理・感想文を書く

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> 介護福祉士養成講座編集委員会『日常生活支援技術Ⅰ』第3版(中央法規) 甲子園短期大学『生活実習ハウス宿泊実習要項』(甲子園短期大学)	定期試験 40% 提出物(ノート、課題、感想文) 40% 授業・実習時の取組態度 20% 以上から総合的に評価する。

授業科目	生活環境支援技術 I				担当者名	守野 美佐子					
サブタイトル	家事生活の支援				担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け					
授業形態	演習	履修区分	選択	単位数	1 単位	授業回数 (授業時間)	15 回 (30 時間)	開講時期	II 回生後期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士		社福主任用	○	フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士		
授業目的	<p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出した り、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。</p> <p>「家事」は、私たちのすべての日常の中にあり、人は安全で快適な自分らしい生活をしたいと考えている。 介護者は、それを当たり前と考えとし個別性を十分に考慮したうえで要介護者の自立に向けた家事介護がで きるように学習する。</p>										
授業内容/方法	生活支援の意義と、要介護者の心身の特徴を把握し、それを即して衣服の構成、衣服の洗濯、乾燥、収納及 び管理方法、寝具の衛生管理など衣生活を中心とした家事の介護を講義と演習を通して行う。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 生活支援の意義と要介護者の心身の特徴が理解できる。 被服素材の特性と繊維製品の表示を理解し、衣服を適切に選択し管理できる。 衣生活を中心とした家事介護の支援の在り方を理解できる。 										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	生活支援の意義と目的	生活支援とは何かを調べておく	授業時の要点を確認
2	被服の機能	被服の働きを調べておく	授業時の要点の復習
3	被服の素材の性能と役割	被服の素材を調べておく	授業時の要点の復習
4	繊維の燃焼実験と鑑別	繊維の燃え方・においを調べておく	授業時の要点の復習
5	素材に合わせた洗剤・洗濯方法	素材に合わせた洗剤・洗い方を調べておく	授業時の要点の復習
6	素材に合ったアイロンの使い方	素材に合ったアイロンの使用法を調べておく	授業時の要点の復習
7	素材に合った漂白・しみ抜き方法	素材に合った漂白・しみ抜き方法を調べておく	授業時の要点の復習
8	収納方法と管理方法	衣服の収納・管理方法を調べておく	授業時の要点の復習
9	寝具の衛生管理	寝具の衛生管理について調べておく	授業時の要点の復習
10	裁縫①道具の種類	裁縫に必要な道具を持参する	授業時の要点の復習
11	裁縫②手縫いの基本	なみ縫い・本返し縫い・半返し縫い 千鳥掛け・まつり縫いを調べておく	授業時の縫い方の復習
12	裁縫③お手玉の型紙作成	事前に持ち物を指示する	授業時の要点の復習
13	裁縫④お手玉の布の裁断	事前に指示する	授業時の要点の復習
14	裁縫⑤お手玉の縫製	事前に指示する	授業時の要点の復習
15	お手玉を使って遊びかたを知る	お手玉を使った遊びを調べておく	実際に遊んでみる

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書>介護福祉士養成講座編集委員会編『生活支援技術 I』 (中央法規出版株式会社)	定期テスト 50% 実技 40% 授業への取組態度 10% 以上から総合的に評価する。

授業科目	生活環境支援技術Ⅱ				担当者名	瀬部 明				
サブタイトル	福祉と住まい				担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け				
授業形態	演習	履修区分	選択	単位数	1 単位	授業回数 (授業時間)	15 回 (30 時間)	開講時期	Ⅱ 回生後期	
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	社福主任用	○	フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書	アロマ		ビジ実務士		
授業目的	<p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出した り、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。</p> <p>将来介護の現場に携わる人たちが、なぜ住まいの整備が必要か、介護福祉士が関わらなければならないか十分に 理解し、自信を持って福祉住環境整備に関われるようにする。</p> <p>そのために、安全で快適な住まいを考え、高齢者や障害者の自立に向けた居住環境の整備のあり方と住宅改 修の具体策について学ぶ。</p>									
授業内容/方法	<p>4月に「バリアフリー展」の見学を行う（事前学習あり）。</p> <p>第1、4、5回はテキスト1を用いて講義を行う。</p> <p>第6～13回はテキスト2を用いて演習を行う（メジャーを用意すること）。</p> <p>第14、15回は作図を含めた演習を行う。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉目的の住宅改修の意義を理解できる。 2. 介護保険と住宅改修、福祉用具の関わりを理解できる。 3. 住宅改修の基本的な提案ができる。 									

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	さまざまな福祉用具（4月）	テキスト1の第1章第5節をよく読んでおく	見学ポイントを確認し、レポート作成の準備をしておく
2	バリアフリー展見学（4月）	会場や出展企業等の下調べをしておく	見学レポートを作成する
3	バリアフリー展見学（4月）	会場や出展企業等の下調べをしておく	見学レポートを作成する
4	居住環境整備の意義と目的	各自の住まいの「嫌なところ」を見つけ出しておく	各自の住まいで要点を確認しておく
5	安心して快適な生活の場づくり	実習で行った施設の平面構成を思い出して書き出しておく	特に施設で必要な空間を整理しておく
6	暮らしやすい生活環境をめざして	高齢化・少子化の問題点が何か調べておく	各自の住む自治体での少子高齢社会対策制度について調べておく
7	バリアフリーとユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの原則の原語を確認しておく	身の回りでユニバーサルデザインのものを探しておく
8	住宅改修のポイント	普段あまり注視しない住まいの細部をよく見ておく	メジャーでいろいろなものを計測しておく
9	玄関、廊下、階段の改修	各自の住まいで実態を確認しておく	各自の住まいで改修要点を確認しておく
10	水回り空間の改修	各自の住まいで実態を確認しておく	各自の住まいで改修要点を確認しておく
11	居室の改修	各自の住まいで実態を確認しておく	各自の住まいで改修要点を確認しておく
12	介護保険と福祉用具	介護保険制度の該当個所の確認をしておく	該当する福祉用具の実例をカタログで確認しておく
13	介護保険と住宅改修	介護保険制度の該当個所の確認をしておく	各自の住む自治体での住宅改修援助制度について調べておく
14	住宅改修の実例分析	インターネット等で実例を見ておく	どんな工事が行われているかインターネット等で確認しておく
15	住宅改修の提案、作図	広告等で住宅図面をたくさん見ておく	各自の住まいで要点を確認しておく

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書>介護福祉士養成講座編集委員会『新・介護福祉士養成講座『生活支援技術Ⅰ』第3版』（中央法規出版） 東京商工会議所『福祉住環境コーディネーター3級公式テキスト<改訂4版>』（東京商工会議所）	見学会レポート 10% 授業参加度（レジメチェック） 20% 授業理解度（定期テスト） 70% 以上から総合的に評価する。

授業科目	日常生活支援技術Ⅰ				担当者名	落合 利香				
サブタイトル	介護技術Ⅰ				担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け				
授業形態	演習	履修区分	選択	単位数	2単位	授業回数 (授業時間)	30回 (60時間)	開講時期	Ⅰ回生前期	
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	社福主任用	○	フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書	アロマ		ビジ実務士		
授業目的	<p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出した り、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。</p> <p>加齢や疾病による心身機能の低下により、日常生活に支障が生じた要介護者の日常生活全般を尊厳と思いや りの心をもって援助できる能力を養う。原理・原則を踏まえなら介助の根拠を明確にし、自立に向けた援助方 法を学ぶ。</p>									
授業内容/方法	<p>介護の意義と目的を理解したうえで、演習を行う。演習では互いに要介護者と介助者を体験し、要介護者の 状態や思いに配慮した介護の展開を行う。また、自立に向けた福祉用具の活用や介護を実践する。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護技術の本質と自立支援の必要性が理解できる。 2. 住環境整備や観察、移動、身支度、整容介護の意義と目的が説明できる。 3. 要介護者の状態に応じた住環境整備、観察、移動、身支度、整容介護が実践できる。 									

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	介護技術の本質 生活支援技術とは	教科書を読んでおく	授業時の要点を整理し、復習する
2	住環境整備① 住環境整備の意義と目的 安眠を促す寝具の選び方	教科書を読んでおく	授業時の要点を整理し、復習する
3	住環境整備② 介護ベッドの構造と種類 ベッドメーカー実践	介護用ベッドの使用方法を調べておく	授業時の要点を整理し、復習する
4	観察の技法① 観察の意義と目的	教科書を読んでおく	授業時の要点を整理し、復習する
5	観察の技法② バイタルサインの測定と報告	バイタルサインについて調べておく	授業時の要点を整理し、復習する
6	自立に向けた移動介護① 移動の意義と目的	教科書を読んで目的と根拠を調べる	授業時の要点を整理し、復習する
7	自立に向けた移動介護② ベッド上の移動	教科書を読んで目的と根拠を調べる	授業時の要点を整理し、復習する
8	自立に向けた移動介護③ 座位・立位介助 歩行介助	正しい座位姿勢について調べておく	授業時の要点を整理し、復習する
9	障害に合わせた移動介助① 車いす介助	車いすの構造と使用方法を調べておく	授業時の要点を整理し、復習する
10	障害に合わせた移動介助② 福祉用具の活用	教科書を読んで目的と根拠を調べる	授業時の要点を整理し、復習する
11	外出援助 段差・坂道・不整地での介助	外出の際の留意事項を調べておく	授業時の要点を整理し、復習する
12	身支度の介護① 身支度の意義と目的	教科書を読んで目的と根拠を調べる	授業時の要点を整理し、復習する
13	身支度の介護② 着脱介助	教科書を読んで目的と根拠を調べる	授業時の要点を整理し、復習する
14	整容介護の意義と目的	教科書を読んで目的と根拠を調べる	授業時の要点を整理し、復習する
15	実技試験	実技課題の練習をしておく	自己評価と他者評価の違いを認識する

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> 介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術Ⅱ』(中央法規出版) いたう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！介護福祉士 国試ナビ 2018』(中央法規出版)	定期試験 60% 実技試験 20% 提出物 10% 授業への取組態度 10% として評価する。

授業科目	日常生活支援技術Ⅱ				担当者名	落合 利香					
サブタイトル	介護技術Ⅱ				担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け					
授業形態	演習	履修区分	選択	単位数	2単位	授業回数 (授業時間)	30回 (60時間)	開講時期	I回生後期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士		社福主任用	○	フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士		
授業目的	<p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出した り、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする</p> <p>加齢や疾病による心身機能の低下により、日常生活に支障が生じた要介護者の日常生活全般を尊厳と思いや りの心をもって援助できる能力を養う。原理・原則を踏まえなら介助の根拠を明確にし、自立に向けた援助方 法を学ぶ。</p>										
授業内容/方法	<p>介護の意義と目的を理解したうえで、要介護者の状態や思いに配慮した介護の展開と自立に向けた福祉用具 の活用を学ぶ。入浴実習では全員が要介護者の体験を行う。</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 清潔保持、入浴、排泄介助、食事介護等の意義と目的を理解し、説明できる。 要介護者の状態に応じた安全・安楽な清潔保持、口腔ケア、入浴、排泄、食事介護の実践ができる。 チームケアの一員として入浴実習の計画・実践・評価ができる。 										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	食事介護① 食事の目的と意義	教科書を読んで目的と根拠を調べる	授業時の要点を整理し、復習する
2	食事介護② 状態に応じた食事の工夫と介護・口腔ケア	福祉用具の活用方法を調べる	授業時の要点を整理し、復習する
3	排泄の介護① 意義と目的	教科書を読んで目的と根拠を調べる	授業時の要点を整理し、復習する
4	排泄の介護② 状態に合わせた排泄介護 福祉用具の選び方	排泄用品の特徴を調べる	授業時の要点を整理し、復習する
5	排泄の介護③ 排泄介護の実践	おむつ体験をしておく	授業時の要点を整理し、復習する
6	清潔保持の介護① 意義と目的	教科書を読んで目的と根拠を調べる	授業時の要点を整理し、復習する
7	清潔保持の介護② 手浴・足浴・温電法	観察のポイントを調べておく	実習に向けて準備を行う
8	清潔保持の介護③ ベッド上での洗髪	教科書を読んで目的と根拠を調べる	授業時の要点を整理し、復習する
9	清潔保持の介護④ 全身清拭の実践	清拭の手順を調べておく	授業時の要点を整理し、復習する
10	入浴介護① 意義と目的	教科書を読んで目的と根拠を調べる	授業時の要点を整理し、復習する
11	入浴介護② 設備と福祉用具	入浴に関する福祉用具を調べておく	授業時の要点を整理し、復習する
12	入浴介護③ 入浴実習計画と準備	チームで話し合い計画書を作成する	授業時の要点を整理し、復習する
13	入浴介護④ 家庭浴槽での入浴実習	各自の分担課題を練習しておく	授業時の要点を整理し、復習する
14	入浴介護⑤ 特殊浴槽での入浴実習	各自の分担課題を練習しておく	授業時の要点を整理し、復習する
15	視覚障がい者の介護 白杖を使った移動介護	視覚障がい者の生活について調べておく	授業時の要点を整理し、復習する

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準	
<教科書> 介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術Ⅱ』『生活支援技術Ⅲ』(中央法規出版) いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！介護福祉士国試ナビ2018』(中央法規出版)	定期試験	50%
	入浴実習	30%
	提出物	10%
	授業への取組態度	10%
	として評価する。	

授業科目	日常生活支援技術Ⅲ				担当者名	中野 久美子					
サブタイトル	高齢者の食生活と健康				担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け					
授業形態	演習	履修区分	選択	単位数	1単位	授業回数 (授業時間)	15回 (30時間)	開講時期	I 回生後期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士		社福主任用	○	フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士		
授業目的	<p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出した り、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。</p> <p>食生活の基本知識として、食文化、栄養、食品衛生、調理等の基本を学ぶ。そして、高齢者の特徴を知り、 生活の質の向上に結び付くような介護における食生活支援について学ぶ。</p>										
授業内容/方法	<p>食品それぞれの特性、安全性、調理操作、調理と味などの総合的なことを学び、高齢者の食生活について 知り、実習でそれらを具体的に理解する。楽しい食事ができるよう食環境を整える重要性も学ぶ。</p>										
到達目標	<p>1. 食品の特性を知り、調理性が理解できる。 2. 食環境が整えられる。 3. 食生活支援の重要性を理解できる。</p>										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	高齢者の食生活支援 概論	教科書、配布資料を通読する	指示したテーマのレポート提出
2	日本・西洋・中国の食文化	教科書、配布資料を通読する	授業時の要点の復習
3	食事のマナー、サービスマナー	教科書、配布資料を通読する	授業時の要点の復習
4	栄養	教科書、配布資料を通読する	授業時の要点の復習
5	食品衛生	教科書、配布資料を通読する	授業時の要点の復習
6	調理の基本	教科書、配布資料を通読する	授業時の要点の復習
7	行事食（日本、欧米）	教科書、配布資料を通読する	授業時の要点の復習
8	食空間の演出方法	教科書、配布資料を通読する	授業時の要点の復習
9	おいしさについて	教科書、配布資料を通読する	授業時の要点の復習
10	高齢者の特徴と栄養	教科書、配布資料を通読する	授業時の要点の復習
11	献立について	教科書、配布資料を通読する	授業時の要点の復習
12	調理実習 1-1. (とろみ食、減塩食)	資料の実習工程を読み覚えておく	指示したテーマのレポート提出
13	調理実習 1-2.	資料の実習工程を読み覚えておく	指示したテーマのレポート提出
14	調理実習 2-1. (行事食：お節料理)	資料の実習工程を読み覚えておく	指示したテーマのレポート提出
15	調理実習 2-2、	資料の実習工程を読み覚えておく	指示したテーマのレポート提出

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書>介護福祉士養成講座編集委員会編集『生活支援技術Ⅰ 4版』(中央法規出版)	定期試験 40% 授業中の課題提出 40% 授業への取組態度 20% 以上から総合的に評価する。

授業科目	日常生活支援技術Ⅳ				担当者名	梶本 智子					
サブタイトル	福祉レクリエーションでの支援				担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け					
授業形態	演習	履修区分	選択	単位数	1 単位	授業回数 (授業時間)	15 回 (30 時間)	開講時期	I 回生後期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士		社福主任用	○	フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士		
授業目的	<p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出した り、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。</p> <p>長寿社会・少子化社会の中で「健康で豊かな人生」の創造は重要な課題である。そこで利用者の豊かな生活 を支援するため、利用者が主体となる福祉レクリエーションの理念と実践について学ぶ。</p>										
授業内容/方法	福祉レクリエーションの意義と目的、支援者としての役割を理解した上で、主体者をアセスメントして福祉 レクリエーションを計画し実践する能力を養う。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 福祉レクリエーションの意義と目的が理解できる。 福祉レクリエーション支援者の役割が理解できる。 福祉レクリエーションを計画して実践できる。 										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	オリエンテーション、アイスブレイキング	福祉レクリエーションに関心を持つ	授業時の要点の復習
2	福祉レクリエーションの意義と目的	事前の指示に副う	授業時の要点の復習
3	福祉レクリエーション支援者の役割	事前の指示に副う	授業時の要点の復習
4	音楽レクリエーションの効果と進め方	テキスト P1～P7 を読む	授業時の要点の復習
5	季節を感じるレクリエーション	事前の指示に副う	授業時の要点の復習
6	目的に合わせたレクリエーション	事前の指示に副う	授業時の要点の復習
7	対象者に合わせたアレンジ法	事前の指示に副う	授業時の要点の復習
8	CSS プロセス	テキスト P6～P8 を読む	授業時の要点の復習
9	A-PIE プロセス	テキスト P9～P11 を読む	授業時の要点の復習
10	時節に合わせたレクリエーション	テキスト P12～P14 を読む	授業時の要点の復習
11	素材・アクティビティの選択	事前の指示に副う	授業時の要点の復習
12	アクティビティケア	事前の指示に副う	授業時の要点の復習
13	プログラム・イベントの企画	テキスト P18～P18 を読む	授業時の要点の復習
14	レクリエーションの楽しさの提供	事前の指示に副う	授業時の要点の復習
15	レクリエーション活動支援の実際	事前の指示に副う	授業時の要点の復習

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> 梶本智子著『高齢者の音楽レクリエーション～春夏秋冬～』	授業中の課題提出 30% 授業への取組態度 20% 支援技術の発表 50% 以上から総合的に評価する。

授業科目	ターミナルケア				担当者名	落合 利香			
サブタイトル	終末期の理解と介護				担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け			
授業形態	講義	履修区分	選択	単位数	2単位	授業回数 (授業時間)	15回 (30時間)	開講時期	Ⅱ回生後期
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	社福主任用	○	フード3級	リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書	アロマ		ビジ実務士	
授業目的	<p>少尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。</p> <p>少子高齢社会を迎えた今、人生の最期を「どこで」「誰と」「どのように迎えるか」という課題が認識されるようになってきた。同時に、過度な延命治療を行うよりも「自然で穏やかな死」を望む方向へと変わりつつある。このような時代の移り変わりに対応したターミナルケアのあり方について理解するとともに、その人らしく最期まで尊厳が尊重された終末期を過ごせるように介護福祉士としての関わりや家族への支援、関係職種との連携を学ぶ。</p>								
授業内容/方法	事例を活用し、終末期を生きる利用者を支えるケアの在り方を考える。また、看とりにおける諸制度、関連職種との連携の在り方を学ぶ。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ターミナルケアの意義・目的が理解できる。 2. ターミナル期の身体的・心理的变化を理解し、尊厳を尊重した最期を迎えるための援助方法が理解できる。 3. 家族支援の必要性と社会資源の活用・チームアプローチについて理解できる 								

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	「死」の捉え方と終末期の理解	死について考えておく	授業時の要点の復習
2	ターミナルケアの意義と目的	自然死について調べておく	授業時の要点の復習
3	ターミナルケアのすすめ方① ～事前説明と確認～	尊厳死について調べておく	授業時の要点の復習
4	ターミナルケアのすすめ方② ～身体的変化と環境整備～	終末期における利用者の身体的変化について調べておく	授業時の要点の復習
5	ターミナルケアのすすめ方③ ～心理的過程とアプローチ	終末期における利用者の心理的变化について調べておく	授業時の要点の復習
6	ターミナルケアのすすめ方④ ～グリーフケア～	グリーフについて調べておく	授業時の要点の復習
7	ターミナルケアのすすめ方⑤ ～家族・関係機関とのチームケア～	関係機関・諸制度について調べておく	授業時の要点の復習
8	危篤時・臨終時の家族のケア	臨終時の対応について調べておく	授業時の要点の復習
9	臨終時の対応① ～死亡診断とご遺体の死後変化～	死亡時・死後の身体的変化について調べておく	授業時の要点の復習
10	臨終時の対応② ～ご遺体に対するマナーとケア～	エンジェルケアについて調べておく	授業時の要点の復習
11	葬式のマナー①	死と生について考えておく	授業時の要点の復習
12	葬式のマナー②	家族との連携、グリーフケアについて調べておく	授業時の要点の復習
13	デスカンファレンス	医療職との連携について調べておく	授業時の要点の復習
14	在宅ターミナルケアの実際①	在宅ターミナルケアについて調べておく	授業時の要点の復習
15	在宅ターミナルケアの実際②	在宅ターミナルケアについて調べておく	授業時の要点の復習

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書>小坂橋喜久代編『こころとからだのしくみ』(メヂカルフレンド社) <参考文献>介護と医療研究会著『介護現場で使える看取りケア便利帳』(株式会社翔泳社)	定期試験 70% 授業中の提出課題 15% 授業への取組態度 15% 以上から総合的に評価する。

授業科目	介護過程 I				担当者名	中村 美智代				
サブタイトル	介護過程の意義と目的				担当形態	単独	複数	オムニバス	クラス分け	
授業形態	演習	履修区分	選択	単位数	2 単位	授業回数 (授業時間)	15 回 (30 時間)	開講時期	I 回生前期	
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	社福主任用	○	フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		初級園福士	医療管秘書		アロマ		ビジ実務士
授業目的	<p>他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>介護過程は、利用者主体の介護を実践するための重要な思考過程である。そこで、介護過程の意義、目的・目標を明確にし、心身の状況に応じた生活を支援する手段として、情報収集とその整理の方法を習得する。</p>									
授業内容/方法	<p>事例を用いて、「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」で習得した知識や技術を活用し、また自らの生活行為と照らし合わせて情報の収集・整理を行う。</p> <p>ICFの定義と構成要素を学ぶことで、生活者としての要介護者を理解する。</p>									
到達目標	<p>1. 介護過程の意義・プロセスを説明することができる。</p> <p>2. ICFの定義と構成要素を理解することができる。</p> <p>3. ICFの視点で情報収集を実践することができる。</p>									

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	介護過程の意義	介護概論で学んだ「介護とは何か」を復習しておく	授業の内容を整理する
2	介護過程の目的	教科書を読んでおく	授業の内容を整理する
3	介護過程の構成要素	教科書を読んでおく	授業の内容を整理する
4	ICFの視点から見た介護過程 (ICFとICIDH)	教科書を読んでおく	授業の内容を整理する
5	ICFの視点から見た介護過程 (ICFの構成要素)	教科書を読んでおく	授業の内容を整理する
6	ICFの視点から見た介護過程 (ICFの特徴)	教科書を読んでおく	授業の内容を整理する
7	情報収集の意義	教科書を読んでおく	授業の内容を整理する
8	情報収集の方法	教科書を読んでおく	授業の内容を整理する
9	介護過程に必要な情報	教科書を読んでおく	授業の内容を整理する
10	情報の整理 (基本情報)	教科書を読んでおく	授業の内容を整理する
11	情報の整理 (食事・排泄)	自分の食事・排泄行為をまとめておく	授業の内容を整理する
12	情報の整理 (入浴・身じたく)	自分の入浴・身じたく行為をまとめておく	授業の内容を整理する
13	情報の整理 (移動・睡眠)	自分の移動・睡眠行為をまとめておく	授業の内容を整理する
14	情報の整理 (コミュニケーション・家事)	自分のコミュニケーション・家事行為をまとめておく	授業の内容を整理する
15	情報の整理 (精神機能・趣味嗜好)	自分の精神機能や趣味嗜好についてまとめておく	授業の内容を整理する

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書>介護福祉士養成講座編集委員会編集『介護過程』(中央法規出版) <参考文献>いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！介護福祉士国試ナビ2018』(中央法規出版)	定期試験 60% 提出物 30% 授業への取組態度 10% 以上から総合的に評価する。

授業科目	介護過程Ⅱ				担当者名	中村 美智代					
サブタイトル	介護過程の展開				担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け					
授業形態	演習	履修区分	選択	単位数	4 単位	授業回数 (授業時間)	30 回 (60 時間)	開講時期	I 回生後期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士		社福主任用	○	フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		初級園福士		医療管秘書		アロマ		ピジ実務士
授業目的	<p>他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>介護過程は、利用者主体の介護を実践するための重要な思考過程である。そこで、介護過程の意義、目的・目標を明確にし、心身の状況に応じた生活を支援する手段として、情報を分析し、課題（ニーズ）を明確にする方法を学ぶ。</p>										
授業内容/方法	<p>事例を用いて、「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」で習得した知識や技術を活用し、自らの生活と照らし合わせて課題（ニーズ）を抽出し、介護を必要とする人の生活全体をとらえる練習を行い、チームアプローチを学ぶ。</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 情報の意味を理解し、分析することができる。 優先すべき課題（ニーズ）が判断できる。 利用者の全体像を把握することができる。 										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	情報の整理と分析の方法	介護過程Ⅰで学んだ事を復習しておく	授業の内容を整理する
2	情報の分析（食事・排泄）	食事・排泄の意義を振り返っておく	授業の内容をアセスメントシートに整理する
3	情報の分析（入浴・身じたく）	入浴・身じたくの意義を振り返っておく	授業の内容をアセスメントシート整理する
4	情報の分析（移動・睡眠）	移動・睡眠の意義を振り返っておく	授業の内容をアセスメントシート整理する
5	情報の分析（コミュニケーション・家事）	コミュニケーション・家事の意義を振り返っておく	授業の内容をアセスメントシート整理する
6	情報の分析（精神機能・趣味嗜好）	精神機能・趣味嗜好の意義を振り返っておく	授業の内容をアセスメントシート整理する
7	課題（ニーズ）とは	教科書を読んでおく	授業の内容を整理する
8	課題（ニーズ）の明確化（食事他）	事例の人物像を周知しておく	授業の内容を整理する
9	課題（ニーズ）の明確化（身じたく他）	事例の人物像を周知しておく	授業の内容を整理する
10	課題（ニーズ）の明確化（精神機能他）	事例の人物像を周知しておく	授業の内容を整理する
11	課題（ニーズ）の優先順位	事例の人物像を周知しておく	授業の内容を整理する
12	人物像の理解と全体像の把握	事例の人物像を周知しておく	授業の内容を整理する
13	介護過程における支援の例（外出援助）	日常生活支援技術の移動介助を復習しておく	外出援助時の振り返りをする
14	介護過程における支援の例（バイタルサインの測定）	こころとからだのしくみⅠのバイタルサインを復習しておく	バイタルサイン測定時の振り返りをする
15	介護実習Ⅰ-③における介護過程の取り組み	介護実習施設の特性を復習しておく	特養・老健に入居している要介護者の特性を整理する

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書>介護福祉士養成講座編集委員会編集『介護過程』（中央法規出版）、資料を配布する <参考文献>いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！介護福祉士国試ナビ2018』中央法規出版	定期試験 60% 提出物 30% 授業への取組態度 10% 以上から総合的に評価する。

授業科目	介護過程Ⅲ				担当者名	中村 美智代					
サブタイトル	介護過程の実際				担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け					
授業形態	演習	履修区分	選択	単位数	2 単位	授業回数 (授業時間)	15 回 (30 時間)	開講時期	Ⅱ 回生前期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士		社福主任用	○	フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		初級園福士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士
授業目的	<p>他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>介護過程は、利用者主体の介護を実践するための重要な思考過程である。そこで、介護過程の意義、目的・目標を明確にし、心身の状況に応じた生活を支援する手段として、介護計画を立案し、介護実践の評価の方法を習得する。</p>										
授業内容/方法	<p>介護実習Ⅰ-③で担当した利用者の介護計画立案の練習を行い、介護実習Ⅱに備える。介護実習Ⅱの終了後は各自が立案した介護計画の妥当性を評価し、介護実践の結果を振り返る。</p>										
到達目標	<p>1. 利用者の生活課題を明確にすることができる。</p> <p>2. 利用者主体の介護計画を立案することができる。</p> <p>3. 介護実践を評価し、再アセスメントに繋ぐことができる。</p>										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	介護過程対象者の情報の整理	介護実習Ⅰ-③の介護過程対象者の情報を整理しておく	授業の内容を整理する
2	介護過程対象者の情報の分析(食事・排泄)	介護過程対象者の食事・排泄について周知しておく	授業の内容をアセスメントシートに整理する
3	介護過程対象者の情報の分析(入浴・身じたく)	介護過程対象者の入浴・身じたくについて周知しておく	授業の内容をアセスメントシートに整理する
4	介護過程対象者の情報の分析(移動・睡眠)	介護過程対象者の移動・睡眠について周知しておく	授業の内容をアセスメントシートに整理する
5	介護過程対象者の情報の分析(コミュニケーション・家事)	介護過程対象者のコミュニケーション・家事について周知しておく	授業の内容をアセスメントシートに整理する
6	介護過程対象者の情報の分析(精神機能・趣味嗜好)	介護過程対象者の精神機能・趣味嗜好について周知しておく	授業の内容をアセスメントシートに整理する
7	対象者の全体像の把握	介護過程対象者の人物像を周知しておく	全体像をまとめる
8	介護計画立案の方法	配布資料を読んでおく	授業の内容を整理する
9	介護計画の長期目標・短期目標	配布資料を読んでおく	授業の内容を整理する
10	具体策の立て方	配布資料を読んでおく	授業の内容を整理する
11	介護計画実践・評価の方法	配布資料を読んでおく	授業の内容を整理する
12	介護実習Ⅱの介護計画の整理	介護計画を整理しておく	授業の内容を整理する
13	ケアカンファレンスの実際(事例紹介)	事例紹介の準備をしておく	授業の内容を整理する
14	ケアカンファレンスの実際(事例検討)	メンバーの介護計画に目を通しておく	授業の内容を整理する
15	ケアカンファレンスの実際(発表)	介護計画発表の準備をしておく	ケアカンファレンスでの助言や意見を整理する

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書>資料を配布する <参考文献>いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！介護福祉士国試ナビ2017』(中央法規出版)	提出物 70% 授業への取組態度 30% 以上から総合的に評価する。

授業科目	介護過程Ⅳ				担当者名	田中 昌美					
サブタイトル	事例研究の基礎的理解				担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け					
授業形態	演習	履修区分	選択	単位数	2 単位	授業回数 (授業時間)	15 回 (30 時間)	開講時期	Ⅱ 回生後期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士		社福主任用	○	フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士		
授業目的	本講義は、これまでの各領域で学んだ知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養うことを目的とする。										
授業内容/方法	介護実習Ⅱで実践した介護過程を事例として、これまで学んだ知識・技術、そして取り上げた事例に関連する先行研究の整理、事例検討会等を通じてケーススタディを行い、介護過程の意義、実践的展開、チームプレイについて理解を深める。										
到達目標	1. 介護過程の意義について説明できる。 2. 介護過程の展開と実践的展開について理解できる。 3. 介護過程におけるチームアプローチが理解できる。										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	介護過程の目的	シラバスの確認	配布資料で復習・ノートの整理
2	介護実習Ⅱの情報収集・アセスメントの確認	介護実習Ⅱの記録を読んでおく	介護実習Ⅱの記録・ノートの整理
3	介護実習Ⅱの生活支援の課題と目標の確認	介護実習Ⅱの記録を読んでおく	介護実習Ⅱの記録・ノートの整理
4	介護実習Ⅱの立案と評価の確認	介護実習Ⅱの記録を読んでおく	介護実習Ⅱの記録・ノートの整理
5	介護過程の展開再考	介護実習Ⅱの記録を読んでおく	介護実習Ⅱの記録・ノートの整理
6	事例研究の意義と目的	配布資料を読んでおく	配布資料で復習・ノートの整理
7	事例研究の方法	配布資料を読んでおく	配布資料で復習・ノートの整理
8	先行研究の探索	事例に関連する情報を図書館で探索しておく	探索方法の確認
9	先行研究の精読	先行研究を収集しておく	先行研究の要点の整理
10	先行研究に関するディスカッション	先行研究の要約を作成しておく	ディスカッション内容の整理
11	事例研究の執筆について	配布資料を読んでおく	配布資料で復習・ノートの整理
12	事例研究会の進め方	事例研究会の準備	配布資料で復習・ノートの整理
13	発表資料の作成方法	発表資料として活用するデータをまとめておく	配布資料で復習
14	発表資料の作成	パワーポイントの操作について学習しておく	発表資料の確認
15	事例検討会	レジメを準備しておく	検討会資料の確認

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> 介護実習Ⅱの記録、教科書は使用しない。適宜資料を配布する。	レポート 60% 授業内発表 30% 授業の取組態度 10% により、総合的に評価する。

授業科目	介護実習				担当者名	高野 恵子、中村 美智代					
サブタイトル	介護体験と実践力の習得				担当形態	単独	複数	オムニバス	クラス分け		
授業形態	実習	履修区分	選択	単位数	10 単位	授業回数 (授業時間)	一回 (一時間)	開講時期	I 回生前期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士		社福主任用	○	フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士		
授業目的	<p>個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。</p> <p>そこで、本実習では介護の実体験を通して、領域「人間と社会」で学んだ人間の尊厳や、領域「こころとからだのしくみ」で学んだ知識、領域「介護」で学んだ安全に援助できる技術を統合させて、介護とは何かを理解し、実践する基礎的能力と応用力を習得する。</p>										
授業内容/方法	<p>訪問介護や通所介護・通所リハビリテーション、障害者支援施設での実習を行い、地域で暮らす利用者の生活の場において、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションをはかる。また、生活支援の見学を通じてその必要性や根拠を明確にし、チームの一員としての介護福祉士の役割を学び、多職種との連携の意義や方法を学ぶ。</p>										
到達目標	<p>1. 地域で暮らす高齢者の生活が理解できる。 2. 地域で暮らす障害者の生活が理解できる 3. 居宅サービスの仕組みが理解できる。</p>										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	介護実習 I - ① (7日間) 訪問介護 2日間	実習先の下見を行い、地域の特色を把握しておく	教員や実習指導者の助言を振り返り、改善に取り組む
2	介護実習 I - ① (7日間) 通所介護・通所リハビリテーション 5日間	計画書にそった実習ができるように、支援技術の確認をしておく	
3	介護実習 I - ② (7日間) 障害者支援サービス	計画書にそった実習ができるように、関連科目のテキストを読んでおく	
4	・事業所の概要		
5	・利用者・家族とのコミュニケーション		
6	・地域での生活		
7	・生活支援技術の方法と必要性		
8	・介護職の役割		
9	・地域との連携		
10	・多職種との連携		
11			
12			
13			
14			
15			

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> 甲子園短期大学『介護福祉士 介護実習要綱』(甲子園短期大学) いたう総研口取得支援センター編集『見て覚える！介護福祉士国試ナビ 2018』(中央法規出版)	実習評価 50% 実習記録物・レポート類 50% 以上から総合的に評価する。

授業科目	介護実習				担当者名	高野 恵子・中村 美智代			
サブタイトル	介護体験と実践力の習得				担当形態	単独	回数	オムニバス	クラス分け
授業形態	実習	履修区分	選択	単位数	10 単位	授業回数 (授業時間)	一回 (一時間)	開講時期	I 回生後期
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	社福主任用	○	フード3級	リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書	アロマ		ビジ実務士	
授業目的	<p>個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。</p> <p>介護の実体験を通して、領域「人間と社会」で学んだ人間の尊厳や、領域「ところとからだのしくみ」で学んだ学習内容を統合させて、介護とは何かを理解し、実践する基礎的能力と応用力を習得する。</p>								
授業内容/方法	<p>施設で暮らす利用者の生活の場において、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションを図る。また、生活支援の見学や実践を通じて必要性や根拠を明確にするとともに、介護対象者を選び、ICFに基づいた情報収集を行う。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設で生活する高齢者の生活が理解できる。 2. 施設で生活する高齢者の心身の状態が理解できる。 3. ICFに基づいた情報収集ができる。 								

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	介護実習 I - ③ (13 日間) 特別養護老人ホーム・介護老人保健施設	実習先の下見を行い、地域の特色を把握しておく	教員や実習指導者の助言を振り返り、改善に取り組む
2	介護実習 I - ④ (7 日間) 認知症対応型共同生活介護		
3	・特別養護老人ホーム・介護老人保健施設の概要		
4	・認知症対応型共同生活介護の概要		
5	・ICFに基づいた情報収集		
6	・個別性の必要性		
7	・利用者の状態に応じたコミュニケーション		
8	・認知機能に応じた自立支援		
9	・介護実践の根拠の理解		
10	・生活支援技術の実践		
11	・多職種との連携、チームアプローチ		
12	・介護職の役割		
13	・カンファレンスの実際		
14			
15			

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> 甲子園短期大学『介護福祉士 介護実習要綱』(甲子園短期大学)	実習評価 50% 実習記録物・レポート類 50% として評価する。

授業科目	介護実習				担当者名	田中 昌美、中村 美智代					
サブタイトル	介護体験と実践力の習得				担当形態	単独	複数	オムニバス	クラス分け		
授業形態	実習	履修区分	選択	単位数	10 単位		授業回数 (授業時間)	1 回 (-時間)	開講時期	Ⅱ 回生前期	
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士		社福主任用	○	フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士		
授業目的	<p>①個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。</p> <p>②個別ケアを行うために個々の生活のリズム個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。</p>										
授業内容/方法	<p>利用者の心身の状況、場面に応じた生活支援を実践する能力を養う。専門的知識、根拠に基づいた介護計画の立案と実践を学ぶ。</p>										
到達目標	<p>1. 利用者ニーズを多角的な視点から捉えることができる。</p> <p>2. 利用者の心身の状態に応じた生活支援が実践できる。</p> <p>3. 介護計画を立案し、個別の生活ニーズに応じた介護実践ができる。</p>										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	介護実習Ⅱ(24日間)介護老人保健施設・特別養護老人ホーム	教科書や配布されたプリントを精読する	実習報告に向けて要点をまとめる
2	・特別養護老人ホームの概要の理解と考察		
3	・介護老人保健施設の概要の理解と考察		
4	・利用者の生活の特性の理解		
5	・利用者の特性に応じたコミュニケーションの実践		
6	・施設の介護計画に基づいた生活支援技術の実践		
7	・介護計画の立案と計画に基づいた介護の実践		
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> 甲子園短期大学『介護福祉士 介護実習要綱』(甲子園短期大学)	実習評価 50% 実習記録物・レポート類 50% 以上から総合的に評価する。

授業科目	介護実習				担当者名	田中 昌美、中村 美智代					
サブタイトル	介護体験と実践力の習得				担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け					
授業形態	実習	履修区分	選択	単位数	10 単位	授業回数 (授業時間)	1 回 (-時間)	開講時期	Ⅱ 回生後期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士		社福主任用	○	フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士		
授業目的	<p>①個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。</p> <p>②個別ケアを行うために個々の生活のリズム個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。</p>										
授業内容/方法	<p>高齢社会の進展に伴い、施設や在宅などで医療的ケアを必要とする利用者が増える傾向にある。そこで、医療的ケアⅠ・Ⅱ・Ⅲの授業で習得した基本的な知識や技術を統合させ、利用者の安全や安楽に配慮した医療的ケアの実際を見学して学ぶ。</p> <p>施設内で行われている喀痰吸引や経管栄養について実施前後の観察事項や準備、留意点、実践の技術や医療職との連携を学ぶ。</p>										
到達目標	<p>1. 介護付き有料老人ホームの施設概要が理解できる。</p> <p>2. 医療的ケアを必要とする利用者の心身の状態が理解できる。</p> <p>3. 安全で安楽な医療的ケアの方法が理解できる。</p>										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	介護実習Ⅰ-⑤ (2日間) 介護付き有料老人ホーム	医療的ケアⅠ・Ⅱ・Ⅲで学んだ知識技術を復習し、理解しておく	実習報告に向けて要点をまとめる
2	・介護付有料老人ホームの概要の理解		
3	・施設で暮らす利用者の理解		
4	・医療的ケアの必要性の根拠と方法の理解		
5	吸引の方法を学ぶ		
6	経管栄養の方法を学ぶ		
7	医療的ケア実施後の留意点と報告・記録の書き方を学ぶ		
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> 甲子園短期大学『介護福祉士 介護実習要綱』(甲子園短期大学)	実習評価 50% 実習記録物・レポート類 50% 以上から総合的に評価する。

授業科目	介護総合演習 I				担当者名	高野 恵子					
サブタイトル	介護実習 I - ①・②に向けて				担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け					
授業形態	演習	履修区分	選択	単位数	1 単位	授業回数 (授業時間)	15 回 (30 時間)	開講時期	I 回生前期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士		社福主任用	○	フード 3 級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士		
授業目的	<p>実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生等が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習にはについては、実習と組み合わせての学習とする。</p> <p>そこで、本授業では居宅で生活する高齢者、障害者の生活や介護サービスの必要性を習得するとともに、実習施設・事業所の役割と機能、利用者とその家族の生活ニーズを理解する。また、地域における介護福祉士の役割と多職種協働の意義を学び、総合的な介護サービスのしくみを理解する。</p>										
授業内容/方法	<p>介護実習 I - ①・②に向けて、介護実習の意義を理解し、介護実習が滞りなく進行できるように実習上の心得を周知する。また、各実習の課題や内容、記録物、準備物を確認し実習に備える。</p>										
到達目標	<p>1. 介護実習の目的が理解できる。 2. 実習における心得が理解できる。 3. 居宅で生活する要介護者の心身の状況が理解できる。</p>										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	介護実習の意義と目的	介護実習要綱、学生便覧「介護福祉士資格」を読んでおく	介護実習に関する教育体系を復習しておく
2	実習施設とは	介護実習要綱を読んでおく	授業時の要点を復習する
3	介護実習までの流れ	介護実習要綱を読んでおく	授業時の要点を復習する
4	介護実習に必要とする手続き	介護実習要綱を読んでおく	授業時の要点を復習する
5	訪問介護実習の学習課題	訪問介護について調べておく	授業時の要点を復習する
6	ワークシートの書き方	事前に指示する	授業時の要点を復習する
7	通所介護・通所リハビリテーション実習の学習課題	通所介護・通所リハビリテーションについて調べておく	授業時の要点を復習する
8	介護実習計画の書き方	事前に指示する	授業時の要点を復習する
9	介護実習計画の確認	事前に指示する	授業時の要点を復習する
10	カンファレンスとは	事前に指示する	授業時の要点を復習する
11	カンファレンスの実際	事前に指示する	授業時の要点を復習する
12	必要書類の書き方	事前に指示する	授業時の要点を復習する
13	障害福祉サービス実習の学習課題	障害福祉サービスについて調べておく	授業時の要点を復習する
14	介護実習に向けて心得	介護実習要綱を読んでおく	自分が行く施設・事業所について調べておく
15	介護実終了時の諸注意	介護実習要綱を読んでおく	自分が行く施設・事業所について調べておく

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> 甲子園短期大学『介護福祉士 介護実習要綱』(甲子園短期大学) いとう総研口取得支援センター編集『見て覚える! 介護福祉士国試ナビ 2018』(中央法規出版)	小テスト・レポート 80% 授業への取組態度 20% 以上から総合的に評価する。

授業科目	介護総合演習Ⅱ					担当者名	中村 美智代				
サブタイトル	介護実習Ⅰ－③・④に向けて					担当形態	単独	複数	オムニバス クラス分け		
授業形態	演習	履修区分	選択	単位数	1単位	授業回数 (授業時間)	15回 (30時間)	開講時期	Ⅰ回生後期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	社福主任用	○	フード3級		リトミック	
	保育士		情報処理士		初級園福士	医療管秘書		アロマ		ビジ実務士	
授業目的	<p>実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については実習と組み合わせての学習とする。</p> <p>実習施設・事業所の役割と機能、利用者とその家族の生活ニーズを理解し、介護福祉士の役割と多職種協働の意義を学ぶ。また、授業で学んだ知識・技術を実習で展開するための学習課題を明確にする。</p>										
授業内容/方法	<p>介護実習Ⅰ－①、Ⅰ－②を振り返り、介護サービス提供の意義と介護福祉士の役割について理解を深める。また、グループワークにより情報交換や互いの学びを共有する。自己の課題を明確にし、介護実習Ⅰ－③、Ⅰ－④に向けて実習の準備を行う。</p>										
到達目標	<p>1. 前期介護実習での自己の課題を明確にすることができる。</p> <p>2. 介護実習に向けて、積極的に準備ができる。</p> <p>3. 多職種協働の意義とその必要性が理解できる。</p>										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	通所介護・通所リハビリテーション実習の振り返り	通所介護・通所リハビリテーション実習を自ら振り返り、記録物をまとめておく	学習した内容を整理し、まとめる
2	訪問介護実習の振り返り	訪問介護を自らの振り返り、記録物をまとめておく	学習した内容を整理し、まとめる
3	介護実習Ⅰ－①の評価の確認	事前に指示する	学習した内容を整理し、まとめる
4	訪問介護実習ワークシートの確認	ワークシートを確認しておく	指摘箇所の修正
5	障害福祉サービス実習の振り返り	障害福祉サービスを自ら振り返り、記録物をまとめておく	学習した内容を整理し、まとめる
6	介護実習Ⅰ－②の評価の確認	事前に指示する	学習した内容を整理し、まとめる
7	特別養護老人ホーム実習の学習課題	介護実習要綱を事前に確認しておく	授業時の要点を復習する
8	介護老人保健施設実習の学習課題	介護実習要綱を事前に確認しておく	授業時の要点を復習する
9	認知症対応型共同生活介護実習の学習課題	介護実習要綱を事前に確認しておく	授業時の要点を復習する
10	記録用紙・必要書類の書き方	事前に指示する	授業時の要点を復習する
11	介護実習計画の立て方	事前に指示する	授業時の要点を復習する
12	介護過程課題への取り組み	事前に指示する	授業時の要点を復習する
13	カンファレンスの運営	事前に指示する	指摘箇所の修正
14	介護実習に向けての心得	事前に指示する	指摘箇所の修正
15	介護実習後の整理	事前に指示する	学習した内容を整理し、まとめる

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> 甲子園短期大学『介護福祉士 介護実習要綱』(甲子園短期大学) いとう総研□取得支援センター編集『見て覚える！介護福祉士国 試ナビ2018』(中央法規出版)	小テスト・レポート 80% 授業への取組態度 20% として評価する。

授業科目	介護総合演習Ⅲ					担当者名	田中 昌美				
サブタイトル	介護実習Ⅱに向けて					担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け				
授業形態	演習	履修区分	選択	単位数	1単位	授業回数 (授業時間)	15回 (30時間)	開講時期	Ⅱ回生前期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士		社福主任用	○	フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士		
授業目的	実習施設・事業所の役割と機能、利用者とその家族の生活ニーズを理解し、介護福祉士の役割と支援に向けた多職種協働の意義と役割を学ぶ。また、授業で学んだ知識・技術を実習で展開するための学習課題を明確化する。										
授業内容/方法	介護実習Ⅰ－③、Ⅰ－④の振り返りを行い、実習Ⅱに向けての取組準備を行う。実習施設の概要や多職種の役割等、介護専門職として必要な知識を学び、介護過程を展開する方法を習得する。										
到達目標	1. 介護実習Ⅰ－③、Ⅰ－④の振り返りができる。 2. 介護実習Ⅱに向けて準備ができる。 3. 介護実習Ⅱにおける自己の課題が明確にできる。										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	介護実習Ⅰ－③振り返り①(まとめ)	特養・老健実習の自らの振り返りを行い、記録物をまとめておく	学習した内容を整理し、まとめる
2	介護実習Ⅰ－③振り返り②(発表)	発表内容をまとめておく	学習した内容を整理し、まとめる
3	介護実習Ⅰ－④振り返り①(まとめ)	グループホームの自らの振り返りを行い、記録物をまとめておく	学習した内容を整理し、まとめる
4	介護実習Ⅰ－④振り返り②(発表)	発表内容をまとめておく	学習した内容を整理し、まとめる
5	介護実習Ⅱの意義と目的	介護実習要綱を事前に確認しておく	授業時の要点を復習する
6	介護過程の展開について	介護過程について復習しておく	授業時の要点を復習する
7	記録の目的とカンファレンス	介護実習要綱を事前に確認しておく	授業時の要点を復習する
8	自己目標の明確化と実習計画	介護実習要綱を事前に確認しておく	授業時の要点を参考に実習計画書を作成する
9	介護実習に向けての心構え	介護実習要綱を事前に確認しておく	授業時の要点を復習する
10	中間指導	利用者像を明確化しておく	授業時の要点を参考に、所定の記録物の記入をすすめる
11	介護実習Ⅱ振り返り①(報告書の確認)	実習の記録物を整理しておく	指摘箇所の修正
12	介護実習Ⅱ振り返り②(発表資料作成の説明)	発表内容を考えておく	授業時の要点を復習する
13	介護実習Ⅱ振り返り③(個人ワーク)	事前に指示する	指摘箇所の修正
14	介護実習Ⅱ振り返り④(個人ワーク)	事前に指示する	指摘箇所の修正
15	実習報告会	事前に指示する	学習した内容を整理し、まとめる

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> 甲子園短期大学『介護福祉士 介護実習要綱』(甲子園短期大学)、 いとう総研取得支援センター編集『見て覚える！介護福祉士国 試ナビ 2016』(中央法規出版)	レポート 70% 授業への取組態度 30% として評価する。

授業科目	介護総合演習Ⅳ				担当者名	中村 美智代				
サブタイトル	介護実習Ⅰ・Ⅱから得た学び				担当形態	単独	回数	オムニバス	クラス分け	
授業形態	演習	履修区分	選択	単位数	1単位	授業回数 (授業時間)	15回 (30時間)	開講時期	Ⅱ回生後期	
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	社福主任用	○	フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		初級園福士	医療管秘書		アロマ		ビジ実務士
授業目的	<p>実習施設の役割と機能、利用者とその家族のニーズを理解し、介護福祉士の役割と支援に向けた多職種協働の意義と役割を学ぶ。また、2年間の実習を振り返り、利用者を多角的かつ柔軟に理解する力を養う。介護福祉士として利用者の生活を支えるために必要な知識・技術・価値について再考する。</p>									
授業内容/方法	<p>実習施設の概要や多職種の役割等、介護専門職として必要な知識を学び、介護実習Ⅰ-⑤に向けて必要な準備を行う。また、2年間の実習を通じて得た、介護観をまとめる。</p>									
到達目標	<p>1. 介護実習Ⅰ-⑤に向けて準備ができる。 2. 介護実習Ⅰ-⑤の振り返りができる。 3. 2年間の実習を振り返り、自分の介護観を明確にすることができる。</p>									

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	介護実習Ⅰ-⑤意義と目的	介護実習要綱を事前に確認しておく	授業時の要点を復習する
2	介護実習Ⅰ-⑤実習施設の概要	介護実習要綱を事前に確認しておく	授業時の要点を復習する
3	介護実習Ⅰ-⑤利用者の理解	介護実習要綱を事前に確認しておく	授業時の要点を復習する
4	介護実習に向けての心構え	介護実習要綱を事前に確認しておく	授業時の要点を復習する
5	中間指導	実習記録を整理しておく	授業時の要点を参考に、所定の記録物の記入をすすめる
6	介護実習Ⅰ-⑤振り返り①（報告書の確認・発表資料作成の説明）	実習の記録物を整理しておく 発表内容を考えておく	指摘箇所の修正
7	介護実習Ⅱ振り返り②（個人ワーク）	事前に指示する	指摘箇所の修正
8	実習報告会	事前に指示する	学習した内容を整理し、まとめる
9	実習での学びの振り返り ①支援技術 ②コミュニケーション技術 ③利用者把握 ④介護計画の立案	事前に指示する	授業時の要点を復習する
10	実習での学びの振り返り ⑤介護計画の 実践 ⑥倫理観 ⑦専門性	事前に指示する	授業時の要点を復習する
11	目指す介護に向けて（情報収集）	自分の介護観をまとめておく	情報を整理しておく
12	目指す介護に向けて（パンフレットの構成）	集めた情報を整理しておく	パンフレットの内容に間違いがないか、教科書などで確認をする
13	目指す介護に向けて（パンフレットの作成）	パンフレット作成の準備をしておく	パンフレットの内容に間違いがないか、教科書などで確認をする
14	目指す介護に向けて（パンフレットの確認）	パンフレット内容の確認をしておく	パンフレットの内容に間違いがないか、教科書などで確認をする
15	求められる介護福祉士像（パンフレットの発表）	発表の準備・練習をしておく	パンフレットの内容に間違いがないか、教科書などで確認をする

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書>『介護福祉士 介護実習要綱』（甲子園短期大学）、いとう総研□取得支援センター編集『見て覚える！介護福祉士国試ナビ2017』（中央法規出版）	レポート 70% 授業への取組態度 30% として評価する

授業科目	発達と老化 I					担当者名	藤原 ミサ子				
サブタイトル	成長と発達					担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け				
授業形態	講義	履修区分	選択	単位数	2 単位	授業回数 (授業時間)	15 回 (30 時間)	開講時期	I 回生前期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	○	社福主任用	○	フード3級	○	リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士		
授業目的	<p>発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。</p> <p>そこで、本授業では、受胎から死ぬまでの人間の成長・発達する過程を通して人を理解し、併せて、それぞれの発達段階における発達課題を理解する。また、成熟期から老年期における症状や疾病の特徴、老化がもたらす高齢者の生活への影響を、身体的、精神的、社会的側面からとらえ、老化に伴う変化の特徴とその対応について学ぶ。</p>										
授業内容/方法	<p>人間の高齢期をあくまでも発達段階の一過程ととらえ、人間は最後の瞬間まで発達していくと理解できるように、身近な事例やマスコミなどで報道される様々な事例などから一般的なこと、個別なこと、最近の特徴、歴史の上で脈々と続く個人、家族、集団としての生き方を具体的に学ぶ。これから社会に出て、生きる力、仕事へのプライドが持てる内容とする。</p> <p>調べる、発表する、討論するなどを通して、自ら学びとる力をつける機会を多くする。</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の成長・発達・成熟について理解できる。 2. 老年期における発達課題・価値観を理解できる。 3. 老化に伴う体の変化と日常生活への影響を理解できる。 										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	発達とは（生理的発達・心理的発達）	教科書 2～8p を読み、質問点を抽出しておく。	授業内容から、質問点の解決、新たな気づき、学びをまとめる。
2	発達段階と発達課題	11～16p を読み、質問点を抽出しておく。	授業内容から、質問点の解決、新たな気づき、学びをまとめる。
3	遺伝、環境、発達と臨界期の基礎的理解	19～24p を読み、質問点を抽出しておく。	授業内容から、質問点の解決、新たな気づき、学びをまとめる。
4	老化から生涯発達へ	30～37p を読み、質問点を抽出しておく。	授業内容から、質問点の解決、新たな気づき、学びをまとめる。
5	老年期の発達課題	40～48p を読み、質問点を抽出しておく。	授業内容から、質問点の解決、新たな気づき、学びをまとめる。
6	老化による身体・社会・心理的变化	52～65p を読み、質問点を抽出しておく。	授業内容から、質問点の解決、新たな気づき、学びをまとめる。
7	高齢者の QOL 主観的幸福感	68～79p を読み、質問点を抽出しておく。	授業内容から、質問点の解決、新たな気づき、学びをまとめる。
8	精神的健康とは	82～86p を読み、質問点を抽出しておく。	授業内容から、質問点の解決、新たな気づき、学びをまとめる。
9	高齢者の精神障害の概要	86～90p を読み、質問点を抽出しておく。	授業内容から、質問点の解決、新たな気づき、学びをまとめる。
10	老化に伴う身体機能の変化と日常生活への影響 ①外見と免疫機能	94～100p を読み、質問点を抽出しておく。	授業内容から、質問点の解決、新たな気づき、学びをまとめる。
11	老化に伴う身体機能の変化と日常生活への影響 ②感覚機能と咀嚼・消化機能	100～110p を読み、質問点を抽出しておく。	授業内容から、質問点の解決、新たな気づき、学びをまとめる。
12	老化に伴う身体機能の変化と日常生活への影響 ③循環器、呼吸器、筋・骨・関節	111～118p を読み、質問点を抽出しておく。	授業内容から、質問点の解決、新たな気づき、学びをまとめる。
13	老化に伴う身体機能の変化と日常生活への影響 泌尿器・生殖器、体温維持	118～123p を読み、質問点を抽出しておく。124～125p の表 4-3 を参照	授業内容から、質問点の解決、新たな気づき、学びをまとめる。
14	老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響 ①記憶機能の変化	129～131p を読み、質問点を抽出しておく。図 4-24 参照	授業内容から、質問点の解決、新たな気づき、学びをまとめる。
15	老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響 ②認知機能の変化	131～134p を読み、質問点を抽出しておく。	授業内容から、質問点の解決、新たな気づき、学びをまとめる。

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> 蘭香代子・高橋龍太郎・山谷里希子編集『発達と老化の理解 第3版』（中央法規出版） <参考文献> 大熊由紀子『物語 介護保険上・下』岩波書店、山田律子・井出訓編集『生活機能からみた老年看護過程』医学書院 河合隼雄『こころの処方箋』新潮文庫、クリスティーン・ブライデン『私は私になっていく 痴呆とダンスを』	毎回、授業からの学びの提出 30% 定期試験 70% 以上から総合的に評価する。

授業科目	発達と老化Ⅱ				担当者名	藤原 ミサ子					
サブタイトル	高齢者と健康				担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け					
授業形態	講義	履修区分	選択	単位数	2 単位	授業回数 (授業時間)	15 回 (30 時間)	開講時期	I 回生後期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	○	社福主任用	○	フード3級	○	リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士		
授業目的	<p>発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。</p> <p>そこで、本授業では、高齢期の症状・疾患は、一人で多くの疾患を併せ持っていたり、症状が慢性化したりすることが多い等、様々な特徴がある。高齢者に多い症状や疾病の特徴を理解して、その留意すべき点、疾患を抱えた高齢者への生活上影響や介護職としての留意点について学ぶ。また、高齢者の健康が近年注目される背景について広く情報を収集し、現在の課題として学び、保健医療職とチームケアを行う意義と保健医療職との連携のポイントも学ぶ。</p>										
授業内容/方法	<p>高齢者の健康課題の特徴を学ぶ。健康課題が生活に及ぼす影響に対する介護職としての留意点を学ぶ。保健医療職とのチームケアの意義とその必要性を事例から学ぶ。</p> <p>学生自身が事前に予習学習をすることによって、授業では事前学習からの疑問・質問を中心に学生相互で理解を深める授業形態とする。</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に多い症状や疾患の原因や特徴について基礎的な理解ができる。 2. 高齢者に多い症状や疾患による生活への影響や生活上の留意点を理解できる。 3. 高齢者を支える保健医療職とのチームケアの意義を理解できる。 										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	高齢者の症状・疾患の特徴	教科書 140～145p を事前学習し、質問点を抽出しておく。	授業内容から、課題の理解を深め、新たな気づき、学びをまとめる。
2	高齢者に多い症状・訴えとその留意点 ①痛みから息苦しさまで	147～157p を事前学習し、質問点を抽出しておく。	授業内容から、課題の理解を深め、新たな気づき、学びをまとめる。
3	高齢者に多い症状・訴えとその留意点 ②かゆみから熱中症まで	157～164p を事前に学習し、質問点を抽出しておく。	授業内容から、課題の理解を深め、新たな気づき、学びをまとめる。
4	高齢者に多い病気とその留意点 ①三大生活習慣病	167～175p を事前に学習し、質問点を抽出しておく。	授業内容から、課題の理解を深め、新たな気づき、学びをまとめる。
5	高齢者に多い病気とその留意点 ②その他の生活習慣病	175～190p を事前に学習し、質問点を抽出しておく。	授業内容から、課題の理解を深め、新たな気づき、学びをまとめる。
6	高齢者に多い病気とその留意点 ③骨・関節系の病気	190～202p を事前に学習し、質問点を抽出しておく。	授業内容から、課題の理解を深め、新たな気づき、学びをまとめる。
7	高齢者に多い病気とその留意点 ④歯・口腔、目、耳の病気	203～211p を事前に学習し、質問点を抽出しておく。	授業内容から、課題の理解を深め、新たな気づき、学びをまとめる。
8	高齢者に多い病気とその留意点 ⑤皮膚、呼吸器の病気	212～220p を事前に学習し、質問点を抽出しておく。	授業内容から、課題の理解を深め、新たな気づき、学びをまとめる。
9	高齢者に多い病気とその留意点 ⑥腎・泌尿器、婦人科系の病気	221～233p を事前に学習し、質問点を抽出しておく。	授業内容から、課題の理解を深め、新たな気づき、学びをまとめる。
10	高齢者に多い病気とその留意点 ⑦消化器系の病気	234～242p を事前に学習し、質問点を抽出しておく。	授業内容から、課題の理解を深め、新たな気づき、学びをまとめる。
11	高齢者に多い病気とその留意点 ⑧循環器系、脳・神経系の病気	242～250p を事前に学習し、質問点を抽出しておく。	授業内容から、課題の理解を深め、新たな気づき、学びをまとめる。
12	高齢者に多い病気とその留意点 ⑨精神の病気、介護保険の特定疾病	250～259p を事前に学習し、質問点を抽出しておく。	授業内容から、課題の理解を深め、新たな気づき、学びをまとめる。
13	高齢者に多い病気とその留意点 ⑩感染症	259～263p を事前に学習し、質問点を抽出しておく。	授業内容から、課題の理解を深め、新たな気づき、学びをまとめる。
14	保健医療職との連携 ①チームケアの必要性	267～271p を事前に学習し、質問点を抽出しておく。	授業内容から、課題の理解を深め、新たな気づき、学びをまとめる。
15	保健医療職との連携 ②連携のポイント	271～275p を事前に学習し、質問点を抽出しておく。	授業内容から、課題の理解を深め、新たな気づき、学びをまとめる。

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書>蘭香代子・高橋龍太郎・山谷里希子編集『発達と老化の理解 第3版』(中央法規出版) <参考文献>大熊由紀子『物語 介護保険上・下』岩波書店、山田律子・井出訓編集『生活機能からみた老年看護過程』医学書院 河合隼雄『こころの処方箋』新潮文庫、クリスティーン・ブライデン『私は私になっていく 痴呆とダンスを』	毎回、授業からの学びの提出 30% 定期試験 70% 以上から総合的に評価する。

授業科目	認知症の理解 I				担当者名	落合 利香					
サブタイトル	認知症の基礎的理解				担当形態	[単独] 複数 オムニバス クラス分け					
授業形態	講義	履修区分	選択	単位数	2 単位	授業回数 (授業時間)	15 回 (30 時間)	開講時期	I 回生後期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士		社福主任用	○	フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士		
授業目的	<p>認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。</p> <p>そこで、本授業では、認知症介護の歴史や認知症者を取り巻く現状と動向を理解し、認知症の定義、認知症の種類、診断方法や治療・予防・支援方法を学ぶ。</p> <p>また、四大認知症と言われている「アルツハイマー型認知症」「血管性認知症」「前頭側頭型認知症」「レビー小体」を中心に原因・症状の特徴・経過を理解するとともに、認知症者に現れる中核症状とBPSD（周辺症状）の違いについて理解し、認知症者の立場に立ったケアのあり方、工夫について考える。</p>										
授業内容/方法	<p>前半は、視聴覚教材を用いて、認知症の症状がどのように変化するか、また発症前と発症後の生活がどのように変わるのかを理解する。それをもとにグループディスカッションをして、どのような支援が必要なのかを考える。</p> <p>後半は、どのようにサポートすればBPSD（周辺症状）は改善されるのかを考え、その人らしさを維持するための環境整備・関わり方を学ぶ。</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症を取り巻く現状とケアの理念が理解できる。 2. 認知症の病態生理、治療、予防について理解できる。 3. 中核症状やBPSDなどを理解し、その人らしい生活を維持するための介護実践方法を考えることができる。 										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	認知症の定義と認知症介護の歴史	教科書を読んでおく	授業時の要点を整理し復習する
2	認知症者を取り巻く現状と動向	認知症者の動向を調べておく	授業時の要点を整理し復習する
3	認知症の種類と特徴	四大認知症を調べておく	認知症の種類と特徴を復習する
4	認知症の診断方法と治療	診断方法を調べておく	診断の方法と種類を復習する
5	視聴覚教材を用いたグループワーク① ～症状の変化と経過～	視聴覚教材の内容を熟読しておく	意見交換できるよう要点をまとめる
6	視聴覚教材を用いたグループワーク② ～発症前と発症後の生活の変化～	テーマに沿って情報を整理しておく	意見交換できるよう要点をまとめる
7	視聴覚教材を用いたグループワーク③ ～認知症者の心情的変化と支援方法～	テーマに沿って情報を整理しておく	意見交換できるよう要点をまとめる
8	視聴覚教材を用いたグループワーク④ ～家族の心情的変化と支援方法～	テーマに沿って情報を整理しておく	病態の変化・進行状況をまとめる
9	中核症状①～記憶のメカニズムと障害～	認知症者の症状を整理しておく	記憶障害について復習する
10	中核症状②～見当識障害・失認・失行～	認知症者の症状を整理しておく	見当識障害等について復習する
11	BPSD①～徘徊・異食・不潔行為・収集癖～	BPSDの対応方法を考えておく	授業時の要点を整理し復習する
12	BPSD②～妄想・不眠・不穏・夜間せん妄～	BPSDの対応方法を考えておく	授業時の要点を整理し復習する
13	認知症者の介護の基本と生活支援	尊厳ある介護とは何かを考えておく	授業時の要点を整理し復習する
14	回想法の概要と活用方法	回想法の概要を調べておく	回想法の活用方法について復習する
15	回想法の実践	回想法に用いる材料を用意しておく	回想法の有効性を復習する。

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> 熊谷頼佳著『タイプ別対応でよくわかる認知症ケア』（ナツメ社出版企画株式会社） <資料>適宜プリントを配布する。	定期試験 70% 授業中の提出課題 20% 授業への取組課題 10% 以上から総合的に評価する。

授業科目	認知症の理解Ⅱ				担当者名	落合 利香			
サブタイトル	認知症者の日常生活				担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け			
授業形態	講義	履修区分	選択	単位数	2単位	授業回数 (授業時間)	15回 (30時間)	開講時期	Ⅱ回生前期
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	社福主任用	○	フード3級	リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書	アロマ		ビジ実務士	
授業目的	<p>認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。</p> <p>そこで、本授業では、認知機能の障害が生活に及ぼす影響を理解するとともに、介護実習での体験を交え、認知症者が自分らしく生活できるよう環境整備や対応を学ぶ。また、今まで住み慣れた地域で生活が継続できるよう諸制度を含む社会資源の活用や専門職との連携を学ぶ。</p> <p>介護者は、単に認知症者の生活支援をするだけでなく、家族介護の現状や心理を受け止め、認知症者と家族がよりよい関係で、お互いの生活が維持できるよう支援方法を学ぶ。</p>								
授業内容/方法	<p>前半は、視聴覚教材を用いて認知症の診断方法を理解し、現在の治療方法や予防方法を学ぶ。また、実習体験を振り返り、プロセスレコードを通して利用者の言動・自分の言動を客観的に考察し、自分の傾向や今後の対応についてグループディスカッションをする。</p> <p>後半は、認知症の発症時期が異なれば生活にどのような影響があるのかを考え、地域で生活が継続できるようにどのような社会資源があるのか事例を通して考える。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症者の心理と行動変化に気づき、状況に合わせた対応・生活支援ができる。 2. 家族の心理と支援方法が理解できる。 3. 社会資源の活用と協働について理解できる。 								

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	認知症の基礎的理解のふりかえり	認知症の理解Ⅰの要点を復習	授業時の要点を整理し復習する
2	認知症対応型共同生活介護における認知症者へのケアと環境整備	実習先の利用者情報を整理しておく	授業時の要点を整理し復習する
3	認知症の治療と予防方法	薬物療法・非薬物療法を調べておく	診断方法と種類を復習する
4	プロセスレコードの活用方法	プロセスレコードの書き方を確認	プロセスレコードの意義を復習する
5	プロセスレコードからみた認知症者の理解①～事例再現と記録～	コミュニケーション技術を確認	修正箇所があれば書き直しておく
6	プロセスレコードからみた認知症者の理解②～グループディスカッション～	事例の課題について整理する	自分の言動を振り返る
7	認知症者の在宅生活の現状と課題	在宅生活の課題を整理しておく	介護保険制度を復習しておく
8	若年性認知症者の家族介護と支援	若年性認知症の生活を考える	授業時の要点を整理し復習する
9	認知症高齢者の家族介護と支援	認知症高齢者の生活を考える	授業時の要点を整理し復習する。
10	地域におけるサポート体制	認知症サポーターを調べておく	授業時の要点を整理し復習する。
11	社会資源の活用とチームアプローチ①～専門職種と役割～	介護保険サービスを調べておく	社会資源について復習する
12	社会資源の活用とチームアプローチ②～地域の社会資源活用と協働～	新オレンジプランについて調べておく	新オレンジプランを復習しておく
13	事例検討①	事例の情報を整理しておく	事例の課題について考えておく
14	事例検討②	社会資源の組み合わせについて考えておく	授業時の要点を整理し復習する
15	認知症者の看取りケア	必要な社会資源を調べておく	授業時の要点を確認し復習する

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> 介護福祉士養成講座編集委員会『認知症の理解』(中央法規出版) <参考文献>適宜プリントを配布する。	定期試験 70% 授業中の提出課題 20% 授業への取組課題 10% 以上から総合的に評価する。

授業科目	障害の理解 I					担当者名	中村 美智代					
サブタイトル	障害のある人の生活を支援する ①					担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け					
授業形態	講義	履修区分	選択	単位数	2 単位	授業回数 (授業時間)	15 回 (30 時間)	開講時期	I 回生前期			
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	○	社福主任用	○	フード3級		リトミック	
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士			
授業目的	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習をする。											
授業内容/方法	形態別に障害を理解し、介護の基本視点を学ぶ。また、地域にあるサービスの利用や家族に対する支援について考える。 ①障害の基礎的理解 ②障害の医学的側面の基礎的知識 ③連携と協働 ④家族への支援											
到達目標	1. 形態別に障害の概要が理解できる。 2. 障害の形態に合わせた適切な介護技術の知識を得る。 3. 生活障害を理解して、その人らしい生活の実現のための支援について考えることができる。											

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	障害の基礎理解 (障害の概念)	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
2	障害の基礎理解 (障害者福祉の基本理念)	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
3	障害者総合支援法におけるサービス提供の場① (訪問系)	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
4	障害者総合支援法におけるサービス提供の場② (通所系)	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
5	障害者総合支援法におけるサービス提供の場③ (入所系)	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
6	肢体不自由 (運動機能障害) の基礎知識	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
7	肢体不自由 (運動機能障害) のある人の理解	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
8	肢体不自由 (運動機能障害) のある人の生活支援と環境整備	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
9	重症心身障害についての理解と生活支援・環境整備の実際を学ぶ	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
10	視覚障害についての基礎知識	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
11	視覚障害のある人の理解	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
12	視覚障害のある人の生活支援と環境整備	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
13	聴覚障害についての基礎知識	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
14	聴覚障害のある人の理解	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
15	聴覚障害のある人の生活支援と環境整備	事前に指示をする	授業時の要点を復習する

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
(教科書) 介護福祉士養成講座編集委員会編集『障害の理解』(中央法規出版)、いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える! 介護福祉士国試ナビ 2018』(中央法規出版)、介護福祉士養成講座編集委員会編集『生活支援技術Ⅲ』(中央法規出版)、適宜プリントを配布	定期試験 60% 小テスト・レポート 20% 授業への取組態度 20%

授業科目	障害の理解Ⅱ					担当者名	中村 美智代					
サブタイトル	障害のある人の生活を支援する ②					担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け					
授業形態	講義	履修区分	選択	単位数	2単位	授業回数 (授業時間)	15回 (30時間)	開講時期	I 回生後期			
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	○	社福主任用	○	フード3級		リトミック	
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士			
授業目的	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。											
授業内容/方法	形態別に障害を理解し、介護の基本視点を学ぶ。また、地域にあるサービスの利用や家族に対する支援について考える。 ①障害の基礎的理解 ②障害の医学的側面の基礎的知識 ③連携と協働 ④家族への支援											
到達目標	1. 形態別に障害の概要が理解できる。 2. 障害の形態に合わせた適切な介護技術の知識を習得する。 3. 生活障害が理解でき、その人らしい生活を実現するための支援を考えることができる。											

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	言語障害についての基礎知識と理解	言語障害について調べておく	授業時の要点をまとめておく
2	言語障害のある人の生活支援と環境整備	事前に指示する	授業時の要点をまとめておく
3	高次脳機能障害についての基礎知識	高次脳機能障害について調べておく	授業時の要点をまとめておく
4	高次脳機能障害のある人の理解	事前に指示する	授業時の要点をまとめておく
5	高次脳機能障害のある人の生活支援と環境整備	事前に指示する	授業時の要点をまとめておく
6	知的障害についての基礎知識と理解	知的障害について調べておく	授業時の要点をまとめておく
7	知的障害のある人の生活支援と環境整備	事前に指示する	授業時の要点をまとめておく
8	精神障害についての基礎知識	精神障害について調べておく	授業時の要点をまとめておく
9	精神障害のある人の理解	事前に指示する	授業時の要点をまとめておく
10	精神障害のある人の生活支援と環境整備	事前に指示する	授業時の要点をまとめておく
11	発達障害についての基礎知識	発達障害について調べておく	授業時の要点をまとめておく
12	発達障害のある人の理解	事前に指示する	授業時の要点をまとめておく
13	発達障害のある人の生活支援と環境整備	事前に指示する	授業時の要点をまとめておく
14	障害のある人の家族への支援	事前に指示する	授業時の要点をまとめておく
15	障害者介護における連携と協働	事前に指示する	授業時の要点をまとめておく

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
〈教科書〉新介護福祉士養成講座編集委員会編集『障害の理解』(中央法規出版)、いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える!介護福祉士国試ナビ 2018』(中央法規出版)、新・介護福祉士養成講座編集委員会編集『生活支援技術Ⅲ』(中央法規出版)、適宜プリントを配布	定期試験 60% 小テスト・レポート 20% 授業への取組態度 20%

授業科目	こころとからだのしくみ I					担当者名	高野 恵子				
サブタイトル	身体の構造と心身機能、「身じたく」「活動・移動」に関連したこころとからだのしくみ					担当形態	[単独] 複数 オムニバス クラス分け				
授業形態	講義	履修区分	選択	単位数	2 単位	授業回数 (授業時間)	15 回 (30 時間)	開講時期	I 回生前期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士		社福主任用	○	フード 3 級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士		
授業目的	<p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。</p> <p>そこで、本授業では、人体の構造、機能及びこころのしくみを介護実践との関連の中で理解し、障害や加齢により生じた日常生活の支障に対し適切に対応できる専門性を習得する。</p>										
授業内容/方法	<p>日常生活支援技術の授業と連動させながら進め、介護技術の根拠を解剖・生理学的に学ぶ。また、生活支援における安全の留意点や心理的側面の配慮について理解を深め、安全・安楽な日常生活支援ができる知識を習得する。</p>										
到達目標	<p>1. 学習・思考・記憶などこころのしくみが理解できる。</p> <p>2. 人体の構造・機能が理解できる。</p> <p>3. 「身じたく」「移動」に関連した介護技術の根拠が理解できる。</p>										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	健康とは何か からだのしくみの理解 (人体部位の名称)	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめる
2	からだのしくみの理解 (骨格・関節・筋)	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめる
3	からだのしくみの理解 (生命維持・恒常性)	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめる
4	からだのしくみの理解 (内臓)	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめる
5	からだのしくみの理解 (脳)	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめる
6	からだのしくみの理解 (神経系)	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめる
7	からだのしくみの理解 (血液循環と心臓))	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめる
8	移動に関連したからだのしくみ (姿勢と体位)	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめる
9	移動に関連したからだのしくみ (ボディメカニクス)	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめる
10	身じたくに関連したからだのしくみ (爪、毛髪)	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめる
11	身じたくに関連したからだのしくみ (口腔)	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめる
12	身じたくに関連したこころのしくみ	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめる
13	こころのしくみの理解 (人間の欲求)	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめる
14	こころのしくみの理解 (記憶と感情)	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめる
15	こころのしくみの理解 (適応のしくみ)	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	ノートの整理をしておく
教科書/参考文献等		単位認定の方法及び基準	
<教科書>介護福祉士養成講座編集委員会編集『新・介護福祉士養成講座 14 こころとからだのしくみ』(中央法規出版)、いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！介護福祉士国試ナビ 2018』(中央法規出版)		定期試験 60% 小テスト・レポート 30% 授業への取組態度 10% 以上から総合的に評価する。	

授業科目	こころとからだのしくみⅡ				担当者名	高野 恵子				
サブタイトル	「入浴・清潔保持」「排泄」「食事」「睡眠」に関連したこころとからだのしくみ				担当形態	☑単独 複数 オムニバス クラス分け				
授業形態	講義	履修区分	選択	単位数	2単位	授業回数 (授業時間)	15回 (30時間)	開講時期	I 回生後期	
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	社福主任用	○	フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書	アロマ		ビジ実務士		
授業目的	<p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。</p> <p>そこで、本授業では、人体の構造、機能及びこころのしくみを介護実践との関連の中で理解し、障害や加齢により生じた日常生活の支障に対し適切に対応できる専門性を習得する。</p>									
授業内容/方法	日常生活支援技術の授業と連動させながら進め、介護技術の根拠を解剖・生理学的に学ぶ。また、生活支援における安全の留意点や心理的側面の配慮について理解を深め、安全・安楽な日常生活支援ができる知識を習得する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構造・機能が理解できる。 2. 「入浴・清潔保持」「排泄」「食事」「睡眠」に関連した介護技術の根拠が理解できる。 3. 介護を要する人の全体像を、こころとからだのしくみと関連させて理解できる。 									

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ (清潔の意義)	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめておく
2	入浴・清潔保持に関連したからだのしくみ (入浴動作)	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめておく
3	入浴・清潔保持に関連したからだのしくみ (皮膚)	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめる
4	入浴・清潔保持に関連したからだのしくみ (褥瘡)	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめておく
5	排泄に関連したこころとからだのしくみ (排泄動作、行動)	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめておく
6	尿の生成と排尿のしくみ	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめておく
7	便の生成と排便のしくみ	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめる
8	排泄における変化の気づきと対応	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめておく
9	食事に関連したこころとからだのしくみ (食事の意義)	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめておく
10	食事に関連したからだのしくみ (咀嚼と嚥下)	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめておく
11	食事に関連したからだのしくみ (消化と吸収)	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめる
12	睡眠のしくみ (加齢による睡眠パターンの変化)	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめておく
13	睡眠のしくみ (心身の機能低下と睡眠への影響)	日常生活支援技術の内容と照らし合わせ、テキストを読んでおく	授業の要点をまとめておく
14	こころとからだのしくみに関するICFの視点	ICFの構成図の確認をしておく	授業の要点をまとめておく
15	こころとからだのしくみに関するICFの活用	ICFの構成図の確認をしておく	ノートの整理をしておく

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書>介護福祉士養成講座編集委員会編集『新・介護福祉士養成講座 14 こころとからだのしくみ』(中央法規) いたう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！介護福祉士国試ナビ 2018』(中央法規)	定期試験 60% 小テスト・レポート 30% 授業への取組態度 10% 以上から総合的に評価する。

授業科目	こころとからだのしくみⅢ					担当者名	大泉 恵美					
サブタイトル	疾患の理解					担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け					
授業形態	講義	履修区分	選択	単位数	2 単位	授業回数 (授業時間)	15 回 (30 時間)	開講時期	Ⅱ 回生前期			
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士	○	社福主任用	○	フード3級		リトミック	
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士			
授業目的	<p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解した上で、生活面に目を向けた学習とする。</p> <p>そこで、本授業では、高齢社会において、生活の質を重視して健康で自立して暮らすことができる「健康な長寿」を実現することが目標となっている。そのためには、介護福祉士は医学の知識を備える必要があり、疾患やその予防について理解を深める。</p>											
授業内容/方法	人体の構造と働き、加齢や疾病による症状、特徴的な疾患について概観し、医学的な専門用語を覚える。											
到達目標	<p>1. 人体の各器官の働きが理解できる。</p> <p>2. 人体の各器官に発症する疾患の概要が理解できる。</p> <p>3. 罹患しないための支援の方法が理解できる。</p>											

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	専門職として医学知識が何故必要かを理解する	高齢者の心身の特徴について調べる	授業時の要点を復習する
2	高齢者の器官別機能の低下を理解する	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
3	高齢者の器官別機能の低下を理解する	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
4	高齢者の疾病の特徴を理解する	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
5	脳血管疾患を理解する	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
6	神経系疾患を理解する (パーキンソン病)	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
7	認知症の種類と特徴を理解する	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
8	循環器系疾患を理解する (虚血性心疾患、心不全、心臓機能障害)	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
9	循環器系疾患を理解する (高血圧症)	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
10	呼吸器系疾患を理解する (肺炎)	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
11	呼吸器系疾患を理解する (気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、呼吸機能障害など)	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
12	代謝・内分泌系疾患を理解する (糖尿病、脂質異常症など)	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
13	骨・運動器系疾患を理解する (骨粗鬆症、関節リウマチ、変形性関節症など)	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
14	消化器疾患を理解する (胃潰瘍・大腸がん、直腸機能障害など)	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
15	腎・泌尿器系・生殖器系疾患を理解する (尿路感染症、前立腺肥大症、腎臓・膀胱機能障害など)	事前に指示をする	授業時の要点を復習する

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> 関弘子著「介護職のための医学知識とケアのポイント」(日本実業出版社) <参考書> いたう総研資格取得支援センター編集「見て覚える!介護福祉士国試ナビ2017」中央法規出版)	定期試験 70% 小テスト・レポート 15% 授業への取組態度 15% 以上から総合的に評価する。

授業科目	こころとからだのしくみⅣ					担当者名	大泉 恵美				
サブタイトル	高齢者・障害者の健康管理					担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け				
授業形態	講義	履修区分	選択	単位数	2 単位	授業回数 (授業時間)	15 回 (30 時間)	開講時期	Ⅱ 回生後期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士		社福主任用	○	フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士		
授業目的	<p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解した上で、生活面に目を向けた学習とする。</p> <p>そこで、本授業では、日々の生活は、「健康」に支えられて成り立っているため、自らの健康を管理できるかどうかということは重要である。したがって、その人の健康問題の解決のあり方と介護福祉士としての援助について理解を深める。</p>										
授業内容/方法	<p>いかに長く生きられるかという目標から、生活の質を重視して健康で自立して暮らすことができる「健康な長寿」について考える。また、支援者としての健康管理の必要性について認識を深め、受診や服薬、感染症対策の具体的な支援を学ぶ。</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者、内部障害のある人全てにおいて健康とは何か「健康寿命」について理解することができる。 2. 地域包括ケアシステム、多職種連携について理解することができる。 3. 高齢者の感染症対策について理解できる。 										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1	内部障害のある人の健康について役割を理解する	高齢者の疾患について調べる	授業時の要点を復習する
2	内部障害のある人の健康について理解する(小腸・肝臓機能障害)	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
3	内部障害のある人の健康について理解する(免疫機能障害、HIV感染者・AIDS患者の理解)	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
4	高齢者・障害者の健康状態と受療状況を理解する	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
5	地域包括ケアシステムを理解する	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
6	地域包括支援センターの役割と現状を知る	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
7	多職種連携、チームアプローチを理解する	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
8	病院で受ける検査の基礎知識	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
9	薬の基礎知識と役割を理解する	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
10	訪問薬剤師の役割と実態を知る	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
11	感染症対策の基礎知識	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
12	高齢者・障害者が罹患しやすい感染症(結核・インフルエンザなど)	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
13	高齢者・障害者が罹患しやすい感染症とその対応(感染性胃腸炎・食中毒など)	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
14	高齢者・障害者が罹患しやすい感染症とその対応(MRSA・疥癬・レジオネラなど)	事前に指示をする	授業時の要点を復習する
15	高齢者・障害者が罹患しやすい感染症とその対応(口腔疾患)	事前に指示をする	授業時の要点を復習する

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> 関弘子著「介護職のための医学知識とケアのポイント」(日本実業出版社)、いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える!介護福祉士国試ナビ 2017』(中央法規出版)	定期試験 70% 小テスト・レポート 15% 授業への取組態度 15% 以上から総合的に評価する。

授業科目	医療的ケア I				担当者名	大泉 恵美					
サブタイトル	喀痰吸引・経管栄養の基礎知識				担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け					
授業形態	講義	履修区分	選択	単位数	4 単位	授業回数 (授業時間)	30 回 (60 時間)	開講時期	Ⅱ 回生前期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士		社福主任用	○	フード 3 級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士		
授業目的	本授業では医療的ケアとは何か、なぜ介護福祉士が行うのかを理解するとともに、介護福祉士が医療的ケアを行うための根拠となる法律や実施するための基本的な構え、医療的ケア（喀痰吸引・経管栄養）を安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。										
授業内容/方法	医療的ケア（喀痰吸引・経管栄養）の実施における基礎知識を学習し、関連する法律や制度、倫理、感染予防について学ぶ。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療的ケアの実施の基礎について理解する。 2. 医療職と介護職の連携について理解を深める。 3. 喀痰吸引・経管栄養実施の手順と留意点について理解する。 										

授業計画

№	テーマ	予習	復習
1・2	医療的ケアとは 人間と社会（倫理、利用者・家族の理解）	医療の倫理について事前学習	授業時の要点を復習する
3・4	保健医療法制度と関連職種の役割・子どもの医療的ケア	保健医療制度について事前学習	授業時の要点を復習する
5・6	安全な療養生活（リスクマネジメント）	リスクマネジメントについて事前学習	授業時の要点を復習する
7・8	清潔保持と感染予防・健康状態の把握（感染予防・滅菌と消毒）	滅菌と消毒の違いを事前学習	授業時の要点を復習する
9・10	経管栄養概論①（消化器系のしくみ） （消化器の症状）	消化器のしくみについて事前学習	授業時の要点を復習する
11・12	経管栄養概論②（経管栄養とは） （注入食）	消化器のしくみについて事前学習	授業時の要点を復習する
13・14	経管栄養概論③（感染と予防） （急変・事故への対応）	消化器のしくみについて事前学習	授業時の要点を復習する
15・16	経管栄養の実施手順と留意点①（胃ろう）	消化器のしくみについて事前学習	授業時の要点を復習する
17・18	経管栄養の実施手順と留意点②（経鼻経管）	消化器のしくみについて事前学習	授業時の要点を復習する
19・20	喀痰吸引概論①（呼吸のしくみ） （いつもと違う呼吸状態）	呼吸器のしくみについて事前学習	授業時の要点を復習する
21・22	喀痰吸引概論②（喀痰吸引とは） （人工呼吸器と吸引）	呼吸器のしくみについて事前学習	授業時の要点を復習する
23・24	喀痰吸引概論③（呼吸器系の感染と予防） （急変・事故への対応）	呼吸器のしくみについて事前学習	授業時の要点を復習する
25・26	喀痰吸引実施手順と留意点① （口腔・鼻腔内）	呼吸器のしくみについて事前学習	授業時の要点を復習する
27・28	喀痰吸引実施手順と留意点② （気管カニューレ）	呼吸器のしくみについて事前学習	授業時の要点を復習する
29・30	小児の経管栄養と急変状態への対応・小児の喀痰吸引と急変状態への対応・チェックリストの確認	小児の経管栄養と喀痰吸引について事前学習	授業時の要点を復習する

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> 介護福祉士養成講座編集委員会編集 新・介護福祉士養成講座 15 医療的ケア 第3版（中央法規出版）	試験（小テスト含む） 90% 授業への取組態度 10% 以上を総合評価する。

授業科目	医療的ケアⅡ				担当者名	大泉 恵美					
サブタイトル	安全な医療的ケアの実施				担当形態	単独 複数 オムニバス クラス分け					
授業形態	演習	履修区分	選択	単位数	2単位	授業回数 (授業時間)	30回 (60時間)	開講時期	Ⅱ回生後期		
関連資格	幼二種		介護福祉士	◎	園芸療法士		社福主任用	○	フード3級		リトミック
	保育士		情報処理士		医療管秘書		アロマ		ビジ実務士		
授業目的	本授業では医療的ケアとは何か、なぜ介護福祉士が行うのかを理解するとともに、介護福祉士が医療的ケアを行うための根拠となる法律や実施するための基本的な心構え、医療的ケア（喀痰吸引・経管栄養）を安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。										
授業内容/方法	医療的ケア（喀痰吸引・経管栄養）で使用する物品の準備や清潔保持の方法、一連の流れと各手順における留意点を理解する。 「喀痰吸引等研修実施要項(厚生労働省)」に定める「基本研修(演習)の評価基準」に準じた1項目につき5回以上の実施を行う。										
到達目標	1. 喀痰吸引を効果的に演習でき一人で実施できる。 2. 経管栄養を効果的に演習でき一人で実施できる。 3. 救急蘇生法について理解できる。										

授業計画

No.	テーマ	予習	復習
1・2	喀痰吸引実施手順と留意点	喀痰吸引実施手順を覚えてくる	喀痰吸引の実施手順を復習する
3・4	経管栄養実施手順と留意点	経管栄養実施手順を覚えてくる	経管栄養実施手順を復習する
5・6	経管栄養の実施①（胃ろう経管栄養）	経管栄養の該当する実施手順を覚えてくること	演習内容を復習する
7・8	経管栄養の実施②（胃ろう経管栄養）	経管栄養の該当する実施手順を覚えてくること	演習内容を復習する
9・10	経管栄養の実施③（経鼻経管栄養）	経管栄養の該当する実施手順を覚えてくること	演習内容を復習する
11・12	経管栄養の実施④（経鼻経管栄養）	経管栄養の該当する実施手順を覚えてくること	演習内容を復習する
13・14	経管栄養の実施⑤（半固形化栄養剤）	経管栄養の該当する実施手順を覚えてくること	演習内容を復習する
15・16	喀痰吸引の実施①（口腔内吸引）	喀痰吸引の該当する実施手順を覚えてくること	演習内容を復習する
17・18	喀痰吸引の実施②（口腔内吸引）	喀痰吸引の該当する実施手順を覚えてくること	演習内容を復習する
19・20	喀痰吸引の実施③（口腔内吸引）	喀痰吸引の該当する実施手順を覚えてくること	演習内容を復習する
21・22	喀痰吸引の実施④（鼻腔内吸引）	喀痰吸引の該当する実施手順を覚えてくること	演習内容を復習する
23・24	喀痰吸引の実施⑤（鼻腔内吸引）	喀痰吸引の該当する実施手順を覚えてくること	演習内容を復習する
25・26	喀痰吸引の実施⑥ （気管カニューレ内部吸引）	喀痰吸引の該当する実施手順を覚えてくること	演習内容を復習する
27・28	喀痰吸引の実施⑦ （気管カニューレ内部吸引）	喀痰吸引の該当する実施手順を覚えてくること	演習内容を復習する
29・30	救急蘇生法	救急蘇生法の実施手順を覚えてくること	演習内容を復習する

教科書/参考文献等	単位認定の方法及び基準
<教科書> 介護福祉士養成講座編集委員会編集 新・介護福祉士養成講座 15 医療的ケア 第3版 (中央法規出版)、いとう総研資格取得支援センター編集『見て覚える！介護福祉士国試ナビ 2017』（中央法規出版）	修了試験 50%、実技試験 50%として総合評価する。 医療的ケアⅠ・Ⅱの試験に合格後、実技試験を受ける。 修了試験と実技試験に関しては、 「喀痰吸引等研修実施要項(厚生労働省)」に定める評価基準に基づいて合否判定する。

総合教養科目

区分	分野	授業科目	サブタイトル	単位	授業形態	1回生		2回生		担当者	備考	免許・資格							編入			
						前	後	前	後			介	幼	保	園	医	ビ	情		社		
必修	人間教育の基礎	特別演習ⅠA	心を育てる-大学生として-	1	演習	○				Ⅰ回生担任											○	
		特別演習ⅠB	心を育てる-大学生として-	1	演習		○			Ⅰ回生担任												○
		特別演習ⅡA	心を育てる-自立に向けて-	1	演習				○	Ⅱ回生担任												○
		特別演習ⅡB	心を育てる-自立に向けて-	1	演習				○	Ⅱ回生担任												○
		人権教育の研究	人権意識の啓発	1	講義		○				熊谷											
社会とくらし	地域の歴史と生活			2	講義			○			開講せず											
	数字で見る経済	現代の日本経済	2	講義				○		永藤									○	○	○	
	日本国憲法	日本国憲法を身近にする	2	講義		○				熊谷			◎	○							○	
	心理学	科学的に人間行動を理解する	2	講義	○					早坂					○					◎	○	
	文学		2	講義				○			開講せず											
	女性のためのライフデザイン	女性のためのライフデザイン	2	講義		○				永藤・保田・木村(山村)	生のみ履修可								○		○	
	社会人としてのマナー	女性のためのライフデザイン	2	講義		○				永藤・保田・木村(山村)	幼のみ履修可				○							
	くらしと法律	家庭と消費生活の法律知識を学ぶ	2	講義	○						開講せず								○	○		
	生活文化演習	生活力を高めるために	1	演習		○				永藤・原・守野	幼のみ履修可		○	◎								
	くらしと環境	身近な環境問題と健康	2	講義				○		原											◎	
インターシップ		2	実習		適	適			保田・中野													
いのちと健康	生命倫理	現代医療における倫理的問題	2	講義				○		浅沼		◎		○								
	臨床心理	こころの健康とその支援	2	講義				○		真崎		◎		○	○						○	
	体育A	幼児期の運動遊び(理論)	1	講義				○		吉田景			◎	◎							○	
	体育B	楽しみながら体力や調整力を培う運動遊び	1	実技				○		吉田景			◎	◎							○	
	生命のしくみと繋がり	いのちの授業	2	講義				○		山本											○	
	身近な化学	栄養を学ぶ基礎	2	講義				○		浅田											○	
表現と情報	情報処理ⅠA	ワープロ入門1	1	演習	○					吉井			◎	○						○		
	情報処理ⅠB	ワープロ入門2	1	演習		○				吉井			◎	○						○		
	情報処理ⅡA	表計算ソフトの活用	1	演習				○		保田			(◎)	(○)					◎			
	情報処理ⅡB	汎用アプリケーションソフトの活用	1	演習				○		保田			(◎)	(○)					◎			
	情報処理論	情報処理の基礎	2	講義		○				吉井										◎		
	統計実務	楽しく統計を学ぶ	2	講義				○		保田											○	
	文章表現	文章表現力をつける	2	講義	○					白方											○	
	文書技術論	ビジネス文書の作成	2	講義	○					吉井								◎	○	○	○	
芸術	書道A	漢字のレッスン	1	演習	○					久米												
	書道B	漢字のレッスン	1	演習		○				久米												
	美術A	子どもの造形表現につなげる美術	1	演習				○		山田			○									
	美術B	子どもの造形表現につなげる美術	1	演習				○		山田			○									
国際文化・国際理解	英語ⅠA	コミュニケーション力の向上	1	演習	○					屋島			◎	◎							○	
	英語ⅠB	コミュニケーション力の向上	1	演習		○				屋島			◎	◎							○	
	国際社会と日本	国際的視野の獲得と日本の理解	2	講義				○		早坂									○	○	○	
園芸	園芸療法論	園芸療法と園芸福祉	2	講義	○					吉長・山本・石神								◎				
	ガーデニングⅠ	保育に活かすガーデニング	2	演習	○					山本・原	幼のみ履修可			○	◎							
	フラワーデザインⅠ	ゆとりある生活のために	1	実習	○					山本・中野・原	幼のみ履修可											
	フラワーデザインⅡ	空間をデザインする表現力	1	実習		○					開講せず											
	園芸療法実習Ⅰ	園芸療法士として活躍するために	1	実習				○		山本・原								◎				
	園芸療法実習Ⅱ	実践力のある園芸療法士を目指して	1	実習				○		山本・原								◎				
	園芸学	園芸の科学と文化	2	講義		○				山本											◎	

平成30年度入学生

生活環境学科(ライフキャリアフィールド・介護福祉フィールド)

区分	授業科目	サブタイトル	単位	授業形態	1回生		2回生		担当者	備考	介	免許・資格						編入	
					前	後	前	後				社	ア	食と健康 フ	サー ビス ビ	園芸 療法	医療事務 医		情
必修	生活環境学概論	現代の生活環境を考える	2	講義	○				田中昌						○			◎	
	キャリアキャッチ演習	適職の選択と準備	2	演習	○				永藤		◎								
	社会福祉概論	社会福祉・社会保障制度の基礎的理解	2	講義	○				田中昌		◎				○			◎	
	ホスピタリティとボランティア	おもてなしの心とボランティア	2	講義		○			永藤						○				
	生活支援技術概論	家庭生活の基本機能	2	講義			○	○	永藤・原・守野	ライフキャリアフィールドは前期宿泊 介護福祉フィールドは後期宿泊	◎								
共通選 択 科目	福祉制度論	介護実践に関する諸制度	2	講義				○	田中昌		◎								
	消費と流通	食のマーケティングを学ぶ	2	講義			○		永藤				◎					◎	
	食の安全	食品の安全性	2	講義	○				守野				◎					◎	
	栄養と健康	健康と食生活を考える	2	講義			○		浅田				◎					◎	
	ライフステージ栄養学	ライフステージ別の栄養	2	講義				○	浅田									◎	
	食のサイエンス	食卓の向こう側	2	講義				○	山本									◎	
	食品加工	食品加工の科学と実践	2	演習		○			中野				◎					◎	
	調理の科学	楽しい調理学	2	講義	○				中野				◎					◎	
	クッキングⅠ	基本の調理学実習	2	実習	○				中野				◎					◎	
	クッキングⅡ	調理の応用	2	実習		○			中野・卜部				◎					◎	
	フードコーディネート論Ⅰ	フードコーディネートの基本	2	講義				○	中野・阪本				◎					◎	
	フードコーディネート論Ⅱ	フードコーディネートの応用	2	講義				○	中野				◎					◎	
	暮らしの行事と文化	和洋の行事、儀礼と文化	2	講義				○	中野				◎					◎	
	テーブルコーディネート	食空間の総合演出	2	演習				○	中野・井上・ 阪本ほか				◎					◎	
	食物と調理	調理学実験	2	実習				○	中野									◎	
	日本語基礎演習Ⅰ	話し方基礎	2	演習	○				木村(山村)										
	日本語基礎演習Ⅱ	話し方応用	2	演習		○			木村(山村)										
	ビジネス実務総論	ビジネスの基本	2	講義				○	永藤・保田・ 木村(山村)				◎						
	ビジネス実務	ビジネスの実践	2	演習				○	保田・ 木村(山村)				◎				○		
	発表技法論	話題の整理と表現方法	2	演習		○			木村(山村)				◎				○		
	園芸デザインⅠ	ゆとりある生活のために	1	実習	○				山本・中野・ 原						○				
	園芸デザインⅡ	空間をデザインする表現力	1	実習	○					開講せず									
	コミュニケーション論	コミュニケーションと人間関係	2	講義				○	早坂		◎		◎	○				◎	
	アロマコーディネート	社会で役立てられるアロマセラピー 知識全般と実技演習	2	演習		○			家永			◎			○				
	ユニバーサルデザイン	ひとにやさしいデザイン	2	演習				○	田中昌						○				
	医療管理学概論	病院管理	2	講義	○		○		尾崎	兼中「医療秘書実務」を含む ライフキャリアフィールドはⅠ回生時 介護福祉フィールドはⅡ回生時							◎		
	医療業務に関する医学一般	医学を広く学ぶ	2	講義	○				大泉									◎	
	医療業務に関する薬の知識	知っておきたい薬の基礎知識	2	講義	○				居場									◎	
医療事務総論	診療報酬事務総論	1	講義	○		○		尾崎	兼中 ライフキャリアフィールドはⅠ回生時 介護福祉フィールドはⅡ回生時							◎			
医療保険請求事務実演	診療報酬事務総論	1	演習	○		○		尾崎	兼中 ライフキャリアフィールドはⅠ回生時 介護福祉フィールドはⅡ回生時							◎			
Webデザイン	ウェブページの制作	2	演習				○	吉井											
園芸Ⅰ	生活に活かす園芸	1	実習	○				山本・原		◎				◎					
園芸Ⅱ	観察する力を伸ばす	1	実習		○			山本・原		◎				◎					

	施設名及び 施設種別	氏名(法人に あつては名称)	位置	実習区分
1	特別養護老人ホーム あそか苑	社会福祉法人 明昭会	〒664-0023 尼崎市大庄西町1-19-4	I・II
2	特別養護老人ホーム 甲寿園	社会福祉法人 甲山福祉センター	〒662-0001 西宮市甲山町53	I・II
3	特別養護老人ホーム サンライフ魚崎	社会福祉法人 ささゆり会	〒658-0083 神戸市東灘区魚崎中町4-10-50	I・II
4	特別養護老人ホーム 西宮恵泉	社会福祉法人 明石恵泉福祉会	〒662-0934 西宮市西宮浜3-7-7	I・II
5	西宮市立介護老人保健施設 すこやかケア西宮	社会福祉法人 西宮市社会福祉 事業団	〒663-8014 西宮市林田町7-17	I・II
6	介護老人保健施設 なにわローランド	社会医療法人 中央会	〒660-0892 尼崎市東難波町1-3-10	I・II
7	あそか苑尼崎中央 デイサービスセンター 武庫川サテライト	社会福祉法人 明昭会	〒660-0077 尼崎市大庄西町1-19-4	I
8	通所介護事業所 デイサービスみどりの風	医療法人社団 平生会	〒662-0836 西宮市大畑町2-13	I
9	フォレスト垂水 デイサービスセンター	ファインフォレスト 株式会社	〒655-0033 神戸市垂水区旭が丘1-9-60	I
10	恵泉西宮浜 デイサービスセンター	社会福祉法人 明石恵泉福祉会	〒662-0934 西宮市西宮浜3-7-7	I
11	なにわローランド 通所リハビリテーション	社会医療法人 中央会	〒660-0892 尼崎市東難波町1-3-10	I
12	あそか苑 武庫川 訪問介護事業所	社会福祉法人 明昭会	〒660-0077 尼崎市大庄西町1-19-4	I
13	いきいき介護支援センター	有限会社 いきいき介護支援センター	〒665-0034 宝塚市小林5-8-37	I
14	高齢者生協 ケアステーション六甲	兵庫県高齢者 生活協同組合	〒657-0028 神戸市灘区森後町2-2-3-101	I
15	フォレストケア	株式会社フォレストケア	〒655-0033 神戸市垂水区旭が丘1-9-60	I
16	恵泉西宮浜 ホームヘルパーステーション	社会福祉法人 明石恵泉福祉会	〒662-0934 西宮市西宮浜3-7-7	I
17	介護付有料老人ホーム エレガノー甲南	スマリッケアライフ株式会社	〒658-0015 神戸市東灘区本山南町3-3-1	I
18	介護付有料老人ホーム エレガノー摩耶	スマリッケアライフ株式会社	〒657-0855 神戸市灘区摩耶海岸通1-3-10	I
19	介護付有料老人ホーム ドマーニ神戸	スマリッケアライフ株式会社	〒655-0006 神戸市垂水区本多間3-1-37	I
20	介護付有料老人ホーム フォレスト垂水	ファインフォレスト 株式会社	〒655-0033 神戸市垂水区旭が丘1-9-60	I

21	生活介護事業所 青葉園	社会福祉法人 西宮市社会福祉 協議会	〒662-0913 西宮市染殿町8-17	I
22	生活介護施設 安倉西身体障害者 支援センター	社会福祉法人 宝塚市社会福祉 協議会	〒665-0825 宝塚市安倉西2-1-2	I
23	生活介護施設 安倉南身体障害者 支援センター	社会福祉法人 宝塚市社会福祉 協議会	〒665-0823 宝塚市安倉南1-2-1	I
24	就労継続支援 (A型、B型)事業所 宝塚育成事業所	社会福祉法人宝塚いくせ い会	〒665-0825 宝塚市安倉西4-1-7	I
25	芦原デイサービスセンター	社会福祉法人 甲山福祉センター	〒662-0842 西宮市芦原町1-20	I
26	神戸市立中部デイサービス 事業所 多機能型障がい者 デイセンターひょうご	社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団	〒652-0897 神戸市兵庫区駅南通5-1-1	I
27	認知症対応型共同生活介護 グループホームうみのほし魚崎	社会福祉法人 神戸海星会	〒658-0025 神戸市東灘区魚崎南町8-10-10	I
28	認知症対応型共同生活介護 たるみグループホーム	社会福祉法人 明進會	〒655-0892 神戸市垂水区平磯4-5-14	I
29	認知症対応型共同生活介護 グループホームみどりの風	医療法人社団 平生会	〒662-0836 西宮市大畑町2-13	I
30	認知症対応型共同生活介護 フレール魚崎中町	社会福祉法人 ささゆり会	〒658-0083 神戸市東灘区魚崎中町4-10-50	I

介護実習要綱

甲子園短期大学

I 介護実習の目的・目標

1. 目的

介護の実体験を通して、領域「人間と社会」で学んだ人間の尊厳や、領域「こころとからだのしくみ」で学んだ介護に必要なからだのしくみ、領域「医療的ケア」における基本研修などを統合させ、介護とは何かを理解する。また、理論に基づいた実践力と応用力、職業倫理を習得する。

2. 目標

- (1) 介護福祉士に必要な知識・技術・態度を統合し、人間の尊厳、人権の保護に基づいて介護する心、福祉への理解を深める。
- (2) 利用者との信頼関係を築けるよう人間的ふれあいを深め、受容・共感・洞察力・感性・等を養うとともに、自らを客観視し、向上させていく態度を養う。
- (3) 地域における施設・事業所の役割や多職種協働によるチームアプローチの必要性を学び、介護を必要とする人に対する介護の職務について理解を深める。
- (4) 福祉に従事する者としての職業倫理を理解し、利用者の自立・自律に向けた介護計画を立案し実践する能力と自己の責任を果たす能力を養う。

II 介護実習の概要

1. 実習区分別のねらい

実習Ⅰ：個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。

実習Ⅱ：1つの施設・事業等において一定期間以上継続して実習を行う。

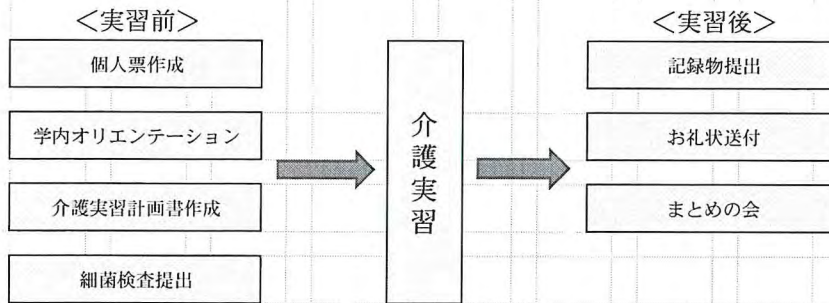
個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。

Ⅲ 介護実習の展開

1. 介護実習の時期

介護実習Ⅰ	I 回生 (I-①)	8月 7日×7.5H 52.5時間	月 火 水 木 金 土 日 月 火	1週 訪問介護 (2日) 通所介護・通所リハビリ (15日)	2週	
	I 回生 (I-②)	9月 7日×7.5H 52.5時間	月 火 水 木 金 土 日 月 火	1週 障害者支援施設 (7日)	2週	
	I 回生 (I-③)	2月 13日×7.5H 97.5時間	月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日	1週 特別介護老人ホーム・介護老人保健施設 (13日)	2週 学内指導日	3週
	I 回生 (I-④)	3月 7日×7.5H 52.5時間	月 火 水 木 金 土 日 月 火	1週 認知症対応型共同生活介護 (7日)	2週	
介護実習Ⅱ	II 回生 5月～6月 5週間 24日×7.5H 180時間	月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日	1～5週 特別介護老人ホーム・介護老人保健施設 (24日)	学内指導日	学内指導日	
介護実習Ⅰ	II 回生 (I-⑤)	11月 2日×7.5H 15時間	月 火	介護付有料老人ホーム (2日)		

2. 介護実習のながれ



3. 介護実習施設・事業所の種別と概要

(1) 訪問介護(ホームヘルプ) 【老人福祉法第5条の2の2/介護保険法第8条2】

「訪問介護」とは、要介護者であつて、居宅(老人福祉法で規定している軽費老人ホーム、有料老人ホーム、養護老人ホームにおける居室を含む)において介護を受けるもの(居宅要介護者という)について、その者の居宅において介護福祉士や訪問介護員などにより行われる入浴、排泄、食事等の介護、調理、洗濯、掃除等の家事、生活などに関する相談業務及び助言その他の必要な日常生活上の世話をいう。

(2) 通所介護(デイサービス) 【老人福祉法第5条の2の3/介護保険法第8条7】

「通所介護」とは、居宅要介護者について、特別養護老人ホームや養護老人ホーム、老人デイサービスセンターに通わせ、当該施設において入浴、排泄、食事等の介護、生活に関する相談業務及び助言、健康状態の確認その他の居宅要介護者に必要な日常生活上の世話、並びに機能訓練を行うことをいう。

(3) 通所リハビリテーション(デイケア) 【介護保険法第8条8】

「通所リハビリテーション」とは、居宅要介護者(主治医が病状が安定期にあり、施設において医学的管理の下における理学療法等が必要であると認めた者に限る)について、介護老人保健施設、病院、診療所に通わせ、当該施設において、その心身の機能の維持回復を図り、日常生活の自立を助けるために行われる理学療法、作業療法その他必要なリハビリテーションを行うことをいう。

(4) 障害福祉サービス 【障害者総合支援法第5条】

「障害福祉サービス」とは、居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、療養介護、生活介護、短期入所、重度障害者等包括支援、共同生活介護、施設入所支援、自立訓練、就労移行支援、就労継続支援、及び共同生活援、自立生活援助、就労定着支援をいう。介護支援や就労支援等を通じて、自立した日常生活や社会生活が営めるように支援を行う。

(5) 認知症対応型共同生活介護(認知症高齢者グループホーム)

【老人福祉法第5条の2の6/介護保険法第8条18】

「認知症対応型共同生活介護」とは、要介護者であつて認知症であるもの(そのものの認知症の原因となる疾患が急性状態にあるものを除く)について、その共同生活を営むべき住居において、入浴、排泄、食事等の介護その他の日常生活上の世話及び機能訓練を行うことをいう。一般的に、1～2の共同生活住居を有し、家事等を利用者と共同し、その入居定員は5～9人の少人数で共同生活を営む施設である。

(6)介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)

【老人福祉法第 20 条の 5/介護保険法第 8 条 27】

「介護老人福祉施設」とは、特別養護老人ホーム(入居定員が 30 名以上)であって、当該特別養護老人ホームに入居する要介護者(40 歳以上で介護認定において要介護1～5と認定された者)に対し、施設サービス計画に基づいて、入浴、排泄、食事等の介護その他の日常生活上の世話、機能訓練、健康管理及び療養上の世話を行うことを目的にしている施設である。基本的には在宅復帰を念頭に施設サービス計画が立案されるが、入居者やその家族が継続して入居を希望すれば可能である。「終生施設」とも言われている。

(7)介護老人保健施設 【介護保険法第 8 条 28】

「介護老人保健施設」とは、介護老人保健施設に入居する要介護者(40 歳以上で介護認定において要介護1～5と認定された者でかつ、病状が安定期にあり介護老人保健施設において看護が必要である者)に対し、施設サービス計画に基づいて、看護、医学的管理の下における介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話を行うことを目的とする施設である。一般的には、病院での治療を終えた要介護者が入居し、約3ヶ月～6ヶ月を目途に在宅復帰に向けて機能回復訓練を行うため「通過施設」ともされている。また、医療施設と福祉施設の間性格を持っていることから「中間施設」とも言われている。

(8)介護付有料老人ホーム 【老人福祉法第 29 条/介護保険法第 8 条 11】

「有料老人ホーム」とは、高齢者を入居させ、入浴、排泄、もしくは食事の介護、食事の提供その他生活上必要な便宜を供与(他に委託して供与する場合及び将来において供与することを約する場合も含む)することを目的とする施設であって、老人福祉施設、認知症対応型老人共同生活介護援助事業を行なう住居その他厚生労働省で定める施設でないものを言う。有料老人ホームは「介護付(一般型特定施設入居者生活介護)」、「介護付(外部サービス利用型特定施設入居者生活介護)」「住宅型」「健康型」に分けられる。一般的に、有料老人ホームは民間の運営による公的補助の無い施設であるため入居契約時の一時金が必要である。「介護付有料老人ホーム」は介護サービスがついた高齢者向け居住施設で、介護が必要となっても、当該有料老人ホームが提供する特定施設入居者生活介護を利用しながら生活を継続することができる施設である。

Ⅲ 介護実習プログラム

実習Ⅰ－① 【Ⅰ回生前期 2日間】

施設種別：訪問介護（ホームヘルプ）

実習目標 ①訪問介護事業所の概要が理解できる。

②利用者・家族とのコミュニケーションを円滑に図ることができる。

③利用者・家族の地域での生活を理解できる。

④居宅における生活支援技術の方法と必要性を理解し、実践できる。

⑤地域における介護職の役割が理解できる。

⑥多職種との連携の必要性を知る。

学習課題	学習内容
1. 訪問介護事業所の概要の理解	施設の準拠法令・沿革・理念・組織構成を理解する。 訪問介護サービスの内容を理解する。 地域における事業所の役割を理解する。 介護福祉士の役割を理解し、専門性について考える。 利用要件を理解する。 居宅サービスの種類と内容を理解する。
2. コミュニケーション技法の必要性の理解	利用者・家族の特性に応じたコミュニケーションの必要性を理解する。 マナーをわきまえ、利用者・家族との円滑なコミュニケーション技法の必要性を理解する。
3. 利用者・家族の理解	利用者・家族を取り巻く生活環境を理解する。 利用者・家族の生活歴や生活習慣を把握する必要性を理解する。 利用者の心身の状態を理解する。 利用者・家族の介護ニーズを理解する。
4. 訪問介護員が行う生活支援技術の理解	訪問介護計画に基づく訪問介護サービスの内容について理解する。 訪問介護員が行う生活支援技術の方法と必要性を理解し、実践する。
5. 多職種の役割と連携の理解	多職種の役割と業務内容を理解する。 多職種との連携と報告・連絡・相談の方法と必要性を知る。

実習Ⅰ－① 【Ⅰ回生前期 5日間】

施設種別：通所介護（デイサービス）、通所リハビリテーション（デイケア）

実習目標 ①通所介護事業所、通所リハビリテーションの概要が理解できる。

②利用者・家族とのコミュニケーションを通じ、個別性が理解できる。

③基本的な生活支援技術の方法と必要性が理解できる。

④事業所における介護職の役割が理解できる。

⑤多職種・地域との連携の必要性を知る。

学習課題	学習内容
1. 通所介護・通所リハビリテーションの概要の理解	施設の準拠法令・沿革・理念・組織構成を理解する。 施設の構造・設備を理解する。 利用要件を理解する。 介護福祉士の業務や役割を理解する。 多職種の業務や役割を理解する。
2. 地域の生活者としての利用者・家族の理解	利用者・家族を取り巻く生活環境を理解する。 利用者の心身の状態を理解する。 利用者・家族の介護ニーズを理解する。
3. コミュニケーション技法の必要性の理解	利用者の特性に応じたコミュニケーションの必要性を理解する。 家族に対し、連絡や報告の必要性を理解する。
4. 特性に応じた生活支援技術の方法と必要性の理解	特性に応じた基本的な生活支援技術の方法と必要性を理解する。 余暇活動やクラブ活動の意義を理解し、企画・運営の方法を学ぶ。 リハビリテーションの意義と方法、内容を理解する。
5. 介護職と多職種との連携、地域との連携の観察	チームの一員として介護職あるいは多職種間との連携の必要性と方法を知る。 多職種あるいは介護職間との報告・連絡・相談の方法と必要性を知る。 地域における事業所の役割と連携の必要性を知る。

実習 I 一② 【I 回生前期 7 日間】

施設種別：障害者支援施設

- 実習目標
- ①障害者支援施設の概要が理解できる。
 - ②利用者を生活者として理解できる。
 - ③障害の特性に応じたコミュニケーションの方法が理解できる。
 - ④基本的な生活支援技術の方法と必要性が理解できる。
 - ⑤人権を尊重し、倫理的配慮に基づいた行動ができる。
 - ⑥多職種・地域との連携の必要性を知る。

学習課題	学習内容
1. 障害者支援施設の概要の理解	施設の準拠法令・沿革・理念・組織構成を理解する。 施設の構造・設備を理解する。 利用要件を理解する。 介護福祉士の業務や役割を理解する。 多職種の業務や役割を理解する。
2. 施設を利用する利用者の生活の理解	利用者の施設での過ごし方を理解する。 利用者の地域での生活を理解する。 作業や余暇活動の方法と意義を理解する。
3. 利用者の心身の状態の理解	利用者の障害の状態と障害等級を関連付けて理解する。 障害のレベルに応じた個別援助の方法を理解する。
4. コミュニケーション技法の必要性の理解	障害の状態やレベルに合わせたコミュニケーションを理解する。 生活場面に合わせたコミュニケーションの活用方法を理解する。
5. 基本的な生活支援技術の方法と必要性の理解	基本的な生活支援技術の方法と必要性を理解する。 自立や社会参加を促す基本的な生活技術を理解する。
6. 人権の尊重と倫理的配慮の理解	利用者の人権やプライバシー保護の必要性を理解する。 人権を護るケアが利用者の日常生活にどのように影響を与えるかを理解する。
7. 介護職と多職種との連携の観察	多職種との連携の必要性を知る。 多職種との連携と報告・連絡・相談の方法と必要性を知る。
8. 地域の特徴と利用者の地域での生活の理解	利用者と地域社会との関わりの実際や、その意義及び今後の課題について知る。

実習Ⅰ－③ 【Ⅰ回生後期 13日間】

施設種別：特別養護老人ホーム、又は介護老人保健施設

- 実習目標
- ①特別養護老人ホーム、又は介護老人保健施設の概要が理解できる。
 - ②ICFに基づいた情報収集を実践し、個別ケアの必要性を習得する。
 - ③利用者の状態に応じたコミュニケーションを図ることができる。
 - ④介護実践の根拠を理解し、生活支援技術が実践できる。
 - ⑤多職種との連携とチームアプローチの必要性が理解できる。

学習課題	学習内容
1. 特別養護老人ホーム・介護老人保健施設の概要の理解	施設の準拠法令・沿革・理念・組織構成を理解する。 施設の構造・設備を理解する。 施設の機能と職員の業務を理解する。 入居要件を理解する。 介護福祉士の業務や役割を理解する。 多職種の業務や役割を理解する。
2. 利用者の個別性の習得	利用者の24時間の生活を理解する。 利用者の生活機能を理解する。 利用者の生活機能に関連する情報を収集し個別性を理解する。
3. 利用者の状態に応じたコミュニケーションの実践	障害や疾病に応じたコミュニケーション手段を選択し、実践する。 傾聴・受容・共感の姿勢でコミュニケーションを実践する。
4. 生活支援技術の実践	自立支援に配慮した生活支援技術を実践する。 生活支援技術を通じて潜在能力を見出す必要性を理解する。
5. 個別ケアの必要性の理解と情報収集の実践	施設内で実施されている生活リハビリなどの見学や、利用者個別の障害や疾病に応じた日常生活における支援を通して、利用者の特徴を理解するために情報収集を実施する。
6. チームアプローチの必要性の理解	多職種の役割と業務内容を理解する。 チームの一員として多職種の専門性や連携の必要性を理解する。 多職種の役割と業務内容を理解する。 チームの一員として多職種との連携と報告・連絡・相談の方法と必要性を理解する。
7. カンファレンスの必要性和運営方法の理解	カンファレンス実施のための事前準備の方法と必要性を理解する。 目的に応じたカンファレンスの役割と運営を理解する。 カンファレンスに参加し、意見交換や発表ができる。
8. 人権尊重と倫理的配慮に基づく行動の実践	生活支援技術を通じて、介護職としての基本的な職業倫理を習得する。

実習 I - ④ 【I 回生後期 7日間】

施設種別：認知症対応型共同生活介護（グループホーム）

- 実習目標
- ①グループホームの概要が理解できる。
 - ②認知機能に障害がある利用者を一人の生活者として理解できる。
 - ③利用者の特性に応じた基本的な生活支援技術の方法と必要性が理解できる。
 - ④認知機能に応じた自立支援の実践ができる。
 - ⑤グループホームにおける介護職の役割が理解できる。
 - ⑥多職種・地域との連携の必要性が理解できる。

学習課題	学習内容
1. グループホームの概要の理解	施設の準拠法令・沿革・理念・組織構成を理解する。 施設の構造・設備を理解する。 グループホームの機能を理解する。 入居要件を理解する。 介護福祉士の業務や役割を理解する。 多職種の業務や役割を理解する。
2. 認知機能の状態に応じたコミュニケーションの理解と実践	認知機能の障害が生活に及ぼす影響を理解する。 傾聴・共感・受容の方法と必要性を理解する。 プロセスレコードを通じて、利用者との相互作用を振り返り自己覚知する。
3. 基本的な生活支援技術の実践	利用者の状態に応じた生活支援技術を実践する。
4. 生活維持拡大、生活意欲向上のための自立支援の理解	利用者の生活リズムを理解する。 共同生活を行う上での利用者の役割と介護者の役割を理解する。 利用者の生活機能に応じた支援の内容と必要性を理解する。
5. 介護職と多職種との連携、多職種・地域との連携の必要性の理解	チームの一員として介護職あるいは多職種間との連携を理解する。 地域における施設の役割と連携の必要性を理解する。 報告・連絡・相談の方法と必要性を理解する。

実習Ⅱ 【Ⅱ回生前期 24日間】

施設種別：特別養護老人ホーム、又は介護老人保健施設

- 実習目標
- ①特別養護老人ホーム、又は介護老人保健施設の概要が理解できる。
 - ②利用者の特性に応じたコミュニケーションを図り、信頼関係を築くことができる。
 - ③施設の介護計画に基づき、根拠を理解して生活支援技術が実践できる。
 - ④介護計画を立案し、個別の生活ニーズに応じた介護実践・評価ができる。
 - ⑤施設・利用者の安全対策や事故、災害時の対応など危機管理が理解できる。
 - ⑥チームの一員として多職種の専門性や連携の必要性が理解できる。
 - ⑦尊厳を支える専門職としての価値・倫理を身につけることができる。

学習課題	学習内容
1. 特別養護老人ホーム・介護老人保健施設の概要の理解と考察	施設の準拠法令・沿革・理念・組織構成を考察する。 施設の構造・設備を考察する。 施設の機能と職員の業務を考察する。 介護福祉士の業務や役割を考察する。 多職種の業務や役割を考察する。 介護保険制度の仕組みとケアマネジメントを理解する。
2. 利用者の生活と特性の理解	利用者の24時間の生活を理解する。 利用者の生活機能に関連する情報を収集し個別性を理解する。 施設で暮らす利用者の特性とニーズを理解する。
2. 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実践	障害や疾病に応じたコミュニケーション手段を選択し、実践する。 傾聴・受容・共感の姿勢でコミュニケーションを実践する。 コミュニケーションや観察を通じて介護ニーズを抽出する。
4. 施設の介護計画に基づいた生活支援技術の実践	利用者の特性に応じた生活支援技術を実践する。 利用者の自己決定に基づく生活支援技術を実践する。 利用者の生活意欲向上に繋がる生活支援技術を実践する。 ターミナルケアの意義と方法を理解する。 余暇活動やクラブ活動の意義を理解し、実践する。 リハビリテーションプログラムと必要性を理解する。
5. 介護計画の立案と計画に基づいた介護の実践	介護計画対象者のアセスメントを実践する。 介護計画に基づいた個別ケアを実践し、評価・考察をする。 再アセスメントの必要性を理解し、実践する。

6. リスクマネジメントの方法と必要性の理解	利用者の生活の安全を阻害する因子を理解する。 具体的な安全対策や防災対策を理解する。 起こり得る事故を予測し回避する必要性を理解し、実践する。
7. チームアプローチの理解と実践	多職種の役割と業務内容を理解する。 チームの一員として多職種との連携と報告・連絡・相談を実践する。
8. 利用者の尊厳を支えるケアの習得	自己の介護実践が、尊厳を支えるケアになっているか考察する。 介護専門職としての職業倫理を習得する。 ターミナルケアにおける尊厳の在り方を理解する。
9. 介護福祉士の果たすべき役割の自覚	介護福祉士としての責任を自覚する。 チームの一員であること、介護専門職としての社会的役割を自覚する。

実習Ⅰ－⑤ 【Ⅱ回生後期 2日間】

施設種別：介護付有料老人ホーム

- 実習目標 ①介護付有料老人ホームの概要が理解できる。
②医療的ケアを必要とする利用者の心身の状態が理解できる。
③安全で安楽な医療的ケアの方法が理解できる。

学習課題	学習内容
1. 介護付有料老人ホームの概要の理解	施設の準拠法令・沿革・理念・組織構成を理解する。 介護福祉士の業務や役割を理解する。 多職種の業務や役割、連携の必要性について理解する。
2. 施設で暮らす利用者の理解	医療的ケアを必要とする利用者の施設での生活を理解する。 医療的ケアを必要とする利用者の気持ちを理解する。 医療的ケアを必要とする利用者の健康状態を理解する。
3. 医療的ケアの必要性の根拠と方法の理解	医療的ケアの準備と留意点を理解する。 喀痰吸引の方法を学ぶ。 経管栄養の方法を学ぶ。 医療的ケア実施後の留意点と報告・記録の書き方を学ぶ。

卒業生の状況

(1) 卒業生の状況

前々年度までの 卒業生の累計 【a】	前年度の卒業生数 【b】	卒業生の合計 【a+b】
387	7	394

(2) 介護福祉士国家試験の受験状況

受験者数 【a】	合格者数 【b】	合格率 【b/a×100】
7	7	100

(3) 前年度卒業生の進路

就 職 先	卒 業 生 数
① 居宅サービス事業所等 (基準該当事業所を含む。)	0
② 介護保険施設	7
③ 障害福祉サービス事業所 (基準該当事業所を含む。)	0
④ 障害者支援施設	0
⑤ 保護施設	0
⑥ 児童福祉施設	0

⑦ 社会福祉協議会		0
⑧ その他		0
⑨ 公務員	国	0
	都道府県	0
	市（区）町村	0
⑩ 医療機関		0
⑪ 他産業		0
⑫ 進学		0
⑬ 未就労		0
合 計		7